

BOSE®

OWNER'S MANUAL

ミニディスクレコーダー

MDA-8

この度はMDA-8をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管しておくことをおすすめします。

MDA-8 取扱説明書



※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

※本機は単体でも機能しますが、本機の性能を発揮するため別売のボーズ社アメリカンサウンドシステムシリーズ(AMS-1、AMS-2(平成11年1月現在)、リモコン付属)と組み合わせでお使いになることをおすすめいたします。

※リモコン(AMS-11)は別売です。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。



△記号は行為を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告



電源プラグを
コンセントから
抜け

- 万一、煙が出ている、変なおいや音をするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



水場での使用
禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- 乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。



使用禁止

- 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。









- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。














- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

	<p>通風孔のある機器のみ</p> <p>●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。テープクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。</p>
	<p>●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。</p>
	<p>●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。</p> <p>●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p> <p>●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。</p>
	<p>●この機器の裏ふた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。</p> <p>●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>●電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p> <p>ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ</p> <p>●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されています。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（ワット／容量）数を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。</p>
	<p>●シンナーやベンジンなどの揮発性の薬品やクレンザーなどは、変色や傷を付ける原因となりますので使用しないでください。</p>

注意

	<p>●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p>
	<p>●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>電池を使用する機器のみ</p> <p>●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>
	<p>●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。</p> <p>●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。</p>
	<p>●約5年に一度は機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったら、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p> <p>●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。</p> <p>※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。</p>
	<p>●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p>
	<p>●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>
	<p>●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。</p>
	<p>●お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。</p>
	<p>●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。</p>
	<p>●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。</p>
	<p>●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。</p>

ミニディスクならこんなことができる

ミニディスクレコーダー（MDA-8）だからできる「こんなこと・あんなこと」簡単にご紹介します。

聴ける-PLAY

聴きかた多彩

リピート再生、ランダム再生、プログラム再生など、多彩な聴きかたが楽しめます。

クリアな音質

ミニディスクはデジタル式、CDやDATと同じなかまです。だから、小さくても高音質。ノイズの少ないクリアな音が楽しめます。

すばやい選曲

聴きたい曲、聴きたいフレーズを簡単にすばやく選ぶことができます。CDと同様のディスク方式だからできる技です。

振動に強い

読み取った信号をいったんメモリーに貯めておいてから再生する音とびガードメモリーにより、ゆれや振動にも音とびしにくく、快適な演奏が楽しめます。

手軽なサイズ

ミニディスクはCDよりも小さく、カートリッジにおさめられています。手軽にディスクを持ち歩くことができ、ディスクの収納にも場所を選びません。

すぐれた耐久性

ディスクからの信号の読み取りは、レーザー光で行います。ディスクに直接触れないので、何度聴いても、クリアな音質はほとんど変わりません。

録れる-REC

デジタル入力で録れる

「オプティカルデジタル入力」端子を装備。より原音に忠実な録音ができます。また、録音レベルを調節する必要がなく、操作が簡単になります。

手軽に録れる

録音の操作をすると、録音されていない部分をひとりで探し出し追加録音されます。前に録音した曲をあわてて消してしまう心配はありません。

いつまでもいい音

ディスクへの記録は、デジタルで行います。何回か録りなおしてもクリアな音質はほとんど変わりません。

録れる-REC

曲番号をつけられる

1曲ごとに曲番号をつけると、CDのように簡単な操作で選曲ができます。オリジナルの音楽ライブラリーもCD同様の使い勝手が実現されます。

自在な編集

録音してから曲順を入れ替えたり、録音してから失敗した部分を取り出して消したり、録音したあとの編集が自由自在にできます。好きな曲を組み合わせでオリジナルの音楽ライブラリーを簡単に作ることができます。

タイトルを書き込める

録音したディスクや曲にアルバム名や曲名などのタイトルを書き込んで、選曲時や再生中に表示部に表示、確認することができます。

ご注意

他のミニディスクレコーダーで書き込まれたタイトルは、本機で正常に表示されないことがあります。

本機はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。
なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
(私的録音補償金についてのお問い合わせ先：社団法人 私的録音補償金管理協会電話：03-3506-8407)

目 次

準備する

安全上の留意項目	2
ミニディスクならこんなことができる	4
セッティングのしかた／接続のしかた	6
各部の名称および機能（背面）／付属品	7
接続図（アメリカンサウンドシステムシリーズAMS-1、AMS-2（平成11年1月現在）と接続する）	8
接続図（他のコンポーネント機器と接続する）	9
各部の名称および機能（前面）	10
表示部の内容	11
各部の名称および機能（リモコン AMS-11）	12
リモコンの取り扱いについて	13
MD（ミニディスク）の取り扱いについて	14
システム上の制約について	16
シリアルコピーマネージメントシステムについて	16

聴く

MDを聴く	17
表示部の表示内容／表示切り替えについて	18
すばやく選曲する	19
曲順を決めてから聴く（プログラム再生）	20
曲順をランダムに並べ替えて聴く（ランダム再生）	21
繰り返して聴く（リピート再生）	21

録音する

録音するまえに（録音するときのご注意）	22
MDに録音する（アナログ録音／デジタル録音）	23
MDに録音する（アナログ録音のレベル調整）	24
録音するときに便利な機能	25
録音中に曲番号を付ける（マーキング機能）	26
シンクロ録音する（CDシンクロ録音）	27
録音した曲を消しながら録音する（オーバーライト録音）	28

曲を消す

1曲ずつ消す（1曲消去）	29
全曲を消す（全曲消去）	30

編集する

編集するときのご注意／曲を分ける（ディバイド機能）	31
曲をつなぐ（コンバイン機能）	33
曲を移動する（ムーブ機能）	34
曲名やディスク名をつける（タイトル機能）	35
曲名やディスク名を変更する／すべての曲名やディスク名を消す（ネームイレース機能）	38

その他

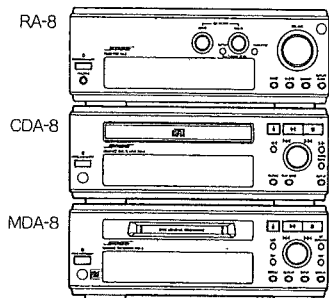
メッセージ表示一覧	39
故障かな？と思ったら	39
故障の場合のお問い合わせ先	39
仕様	裏表紙
保証	裏表紙

セッティングのしかた

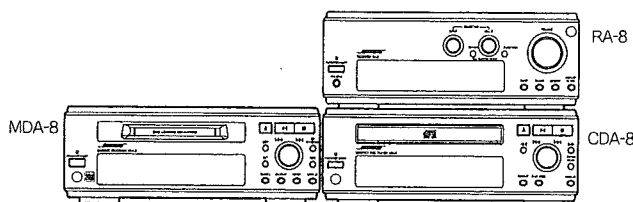
本機はボーズ社アメリカンサウンドシステムシリーズAMS-1、AMS-2（平成11年1月現在）とシステムを組むことができます。

システムの性能を発揮させるため、次のように設置してください。

縦組みに置いた場合（正面図）



横組みに置いた場合（正面図）



システムを組む場合、MDレコーダー（MDA-8）は下段に設置し、ステレオレシーバー（RA-8）が最上段になるように設置してください。ステレオレシーバー（RA-8）上、横部の放熱口をふさがないでください。放熱が妨げられると火災や故障の原因になります。

接続のしかた

接続上の注意

- ※接続の際は、接続する装置（アンプまたは、ステレオレシーバーなど）の電源を切ってから行ってください。
- ※接続する前に、本機に接続するオーディオ機器やビデオ機器の取扱説明書もよくお読みください。
- ※左右チャンネル、入力、出力端子をよく確かめて、正しく（左と左、右と右）接続してください。
- ※プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音発生の原因になります。

接続の順序

接続する場合や、外す場合は本機の電源プラグを必ず抜いた状態で行ってください。

- ①セッティングのしかた（上の図）のようにセットを設置します。
- ②MDレコーダーに付属のオーディオピンケーブル、光デジタルケーブル、システムコントロールケーブルを接続します。

ステレオレシーバー（RA-8）との接続（アナログ接続）

録音用の接続：本機の録音入力端子とステレオレシーバーのMD録音出力端子を付属のオーディオピンケーブルで接続します。

再生用の接続：本機のLINE OUT端子とステレオレシーバーのMD PLAY端子を付属のオーディオピンケーブルで接続します。また、付属のシステムコントロールケーブルをシステムコントロール端子に接続します。

CDプレーヤー（CDA-8）との接続（デジタル接続）

本機のデジタル端子（OPTICAL）入力-1または、入力-2とCDプレーヤー（CDA-8）のデジタル出力端子（OPTICAL）を付属の光デジタルケーブルで接続します（接続図8ページ参照）。

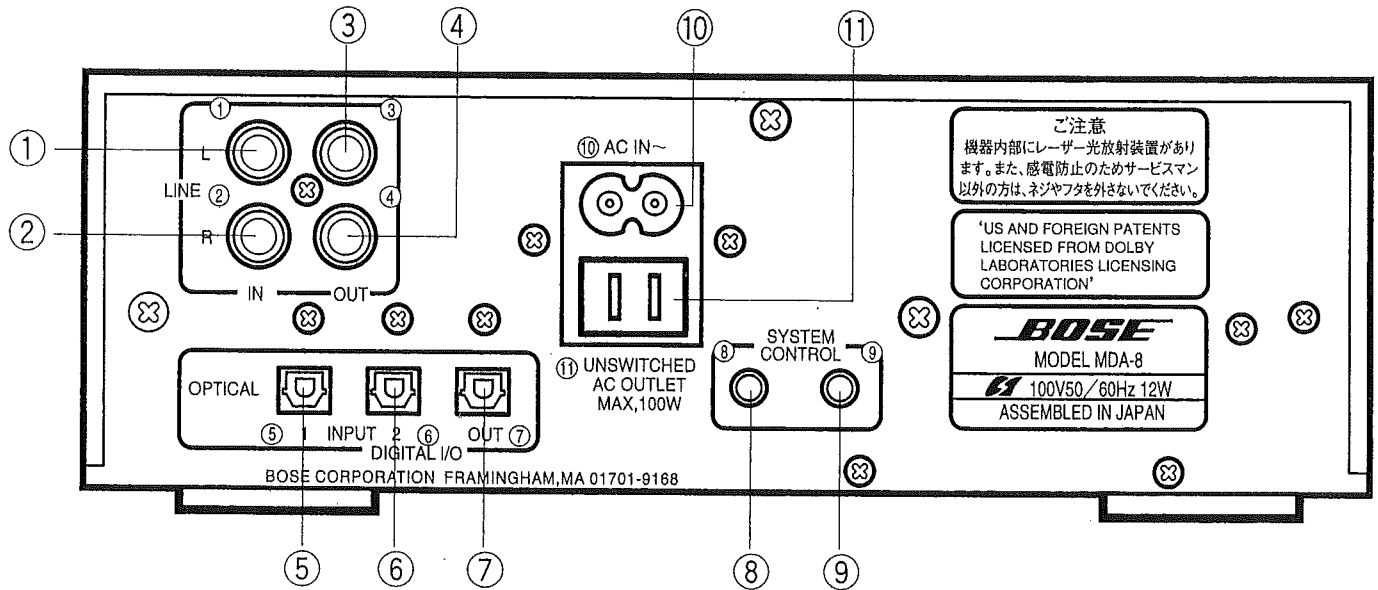
- ③正しく接続されているか、もう一度確認してから、MDレコーダー（MDA-8）の電源プラグをCDプレーヤー（CDA-8）または、壁のコンセントなど他の機器の電源に連動しないところへつなぎます。
- ※RA-8の電源コンセントはパワースイッチに関係なく常に電源が供給されています。

本機背面の電源コンセントについて

非連動（最大容量100W）：パワースイッチに関係なく、常に電源が供給されています。

※接続する装置の消費電力が、指定電力容量を越えると危険です。接続する前に消費電力を確認してください。

各部の名称および機能 (背面)



①②LINE IN (ラインイン)

外部からのアナログの信号を入力する端子です。

③④LINE OUT (ラインアウト)

MDのアナログの再生信号が出力されます。

⑤DIGITAL I/O OPTICAL INPUT (光デジタル入力端子) 1

光デジタル信号を入力する端子です。市販の角型、EIAJ 標準光デジタルケーブルを使ってこの端子に接続します。

⑥DIGITAL I/O OPTICAL INPUT (光デジタル入力端子) 2

光デジタル信号を入力する端子です。市販の角型、EIAJ 標準光デジタルケーブルを使ってこの端子に接続します。

⑦DIGITAL I/O OPTICAL OUTPUT (光デジタル出力端子)

サンプリング周波数44.1kHzの光デジタル信号が出力

されます。市販の角型、EIAJ 標準光デジタルケーブルを使ってこの端子に接続します。

⑧⑨SYSTEM CONTROL (システムコントロール)

ボーズ社アメリカンサウンドシステムシリーズAMS-1、AMS-2 (平成11年1月現在) のステレオレシーバー (RA-8)、CDプレーヤー (CDA-8) などとシステムコントロールケーブルで接続します。

⑩AC IN~

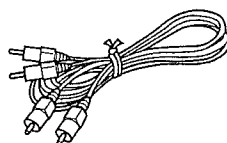
接続がすべて終了したら、電源プラグを電源コンセントに差し込みます。表示部に“STANDBY”が表示されます。この“STANDBY”表示は、1ヶ月以上、電源プラグを抜いた (バックアップ用電池が放電した) 状態のときに表示されます。

⑪UNSWITCHED AC OUTLET

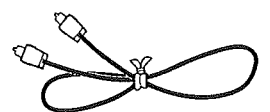
非連動 (最大容量100W) の電源コンセントです。パワースwitchに関係なく常に電源が供給されています。

付属品

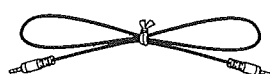
1. オーディオピンケーブル (2本)
他のオーディオ機器とつなぐためのコードです。



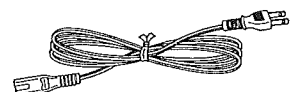
2. 光デジタルケーブル (1本)
他のオーディオ機器とつなぐためのケーブルです。



3. システムコントロールケーブル (1本)



4. 電源コード (1本)

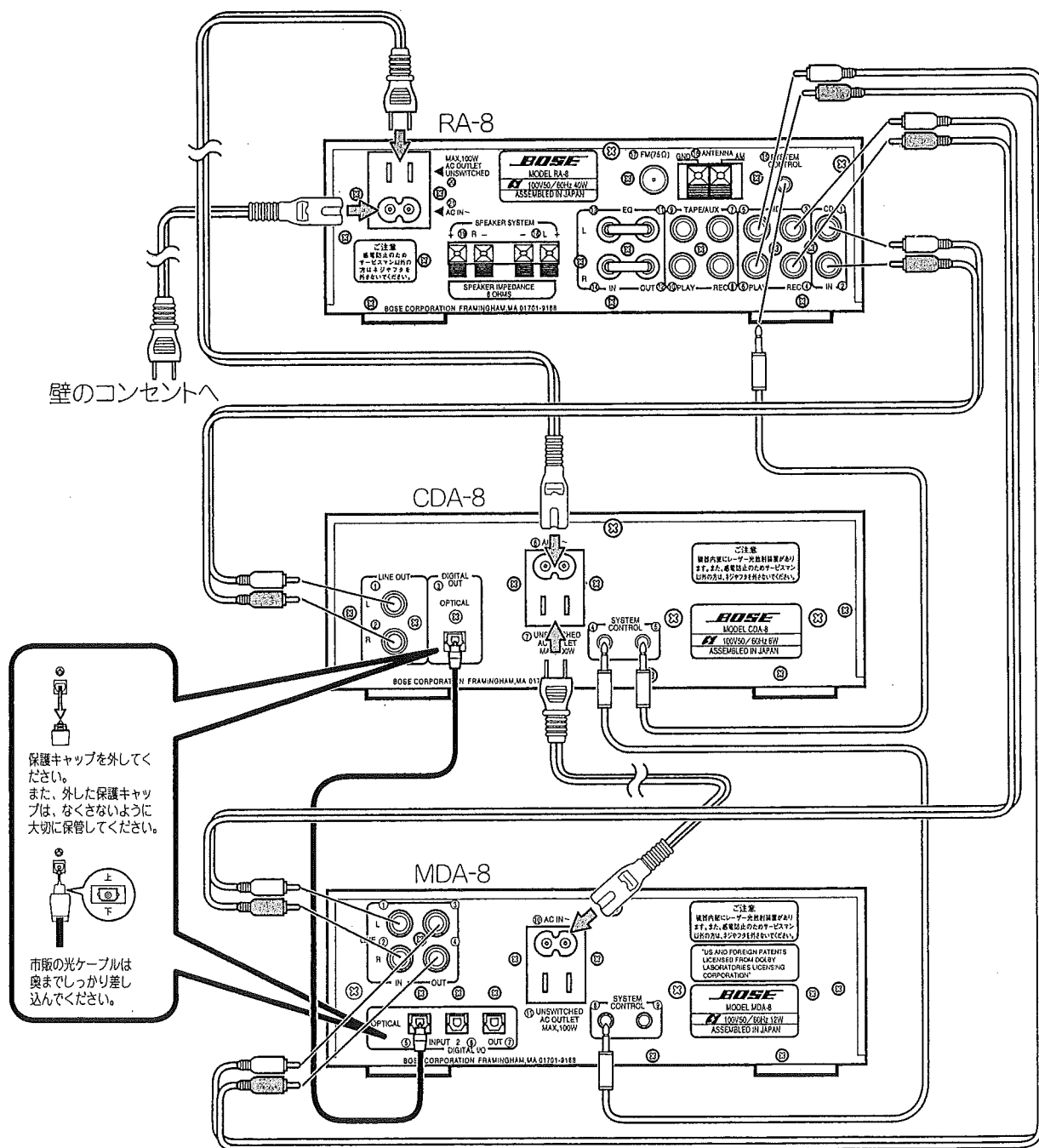


接続図 (AMS-1、AMS-2と接続する)

システムコントロールケーブルは、雑音低減のため、アンテナ線から離してください。

MDレコーダーの電源

電源プラグをステレオレシーバー(RA-8)または、他のコンポーネント背面の電源コンセントに差し込みます。



接続図（他のコンポーネント機器と接続する）

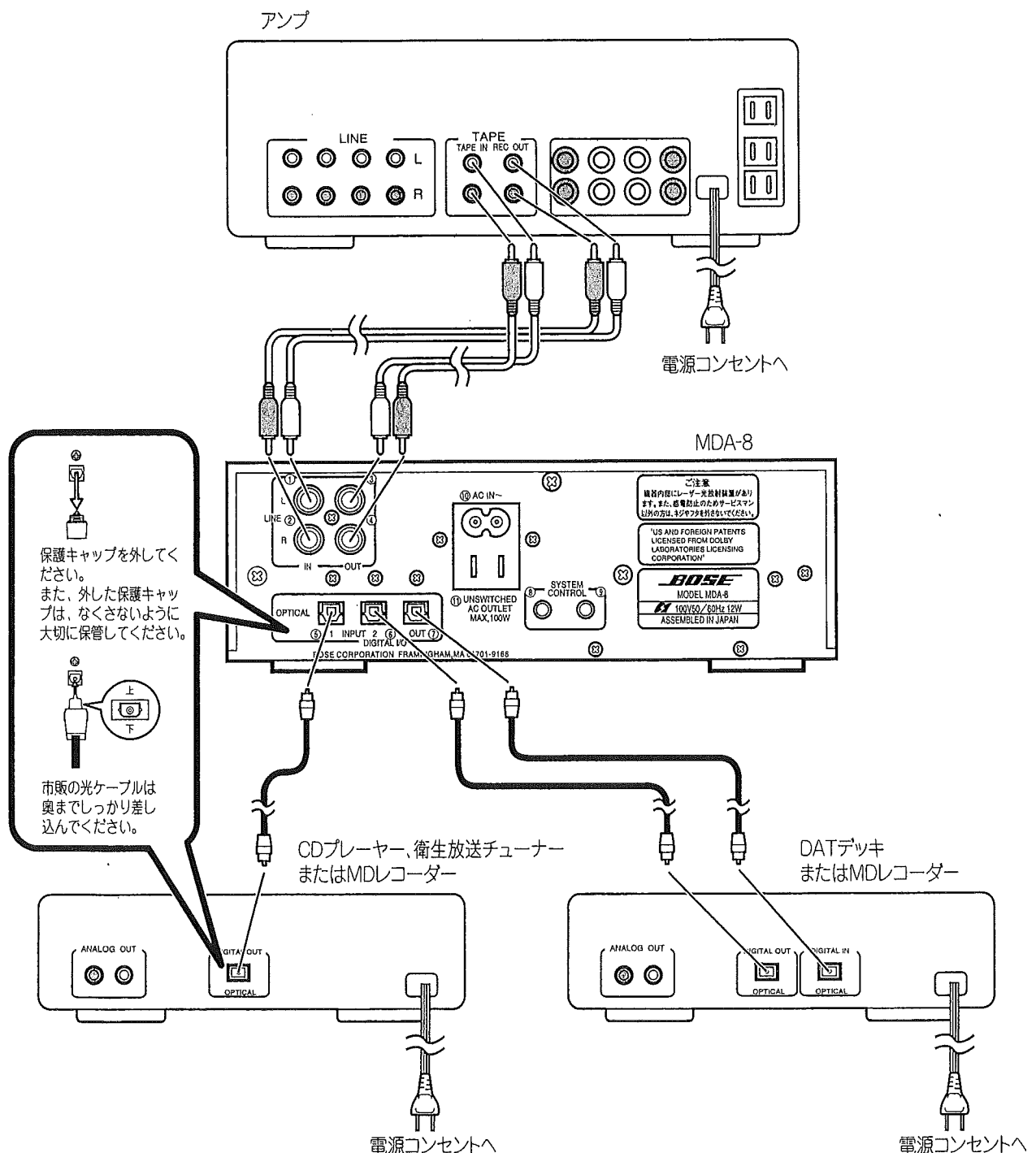
本機には、サンプリング周波数に自動的に対応するコンバーターが搭載されています。

デジタル入力信号をMDのサンプリング周波数（44.1kHz）に変換して録音します。したがってCD、MDだけでなくサンプリング周波数の異なるDAT（32kHz、48kHz）、衛星放送（32kHz、48kHz）などを本機でデジタル録音できます。

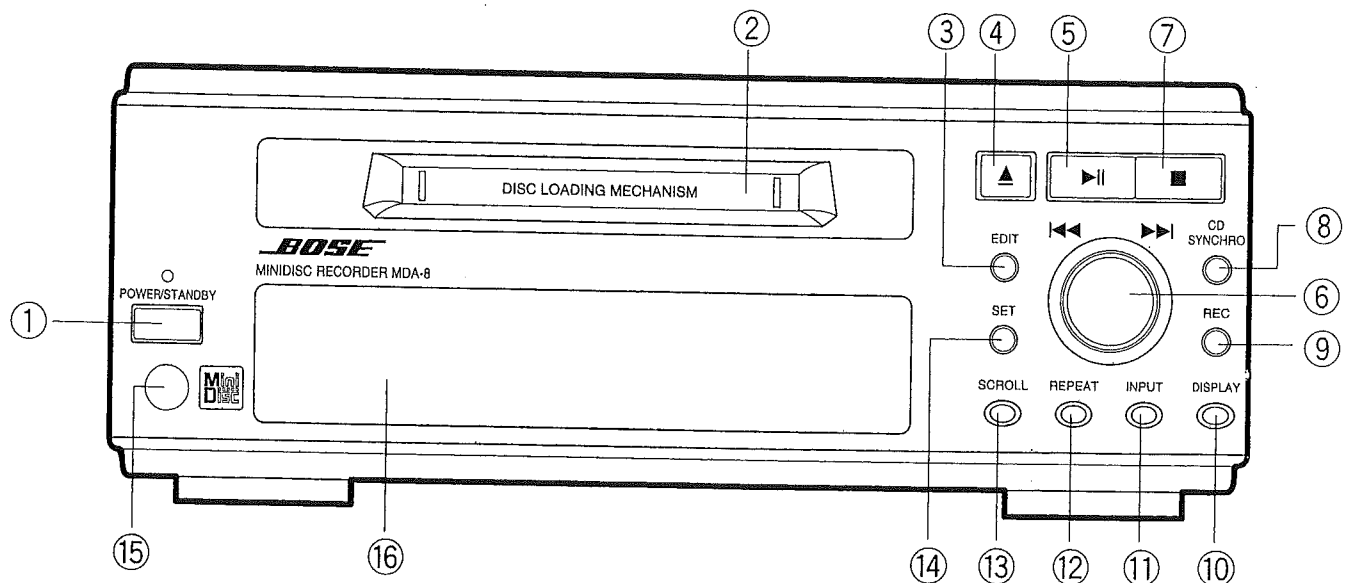
ご注意

※デジタル録音できないときは、“Din Unlock” または “Cannot Copy” が表示されます。このときは、アナログ入力端子につなぎ、INPUT（入力切替）キーで「ANALOG IN」に合わせて録音してください。

※光デジタルケーブルを使ってデジタル録音するときは、録音レベルを調節できません。



各部の名称および機能 (前面)



①POWER/STANDBY (パワー/スタンバイ) 電源スイッチとSTANDBY (スタンバイ) インジケータ

このスイッチを押すと表示部が点灯して電源が入ります。もう一度押すと電源が切れてSTANDBYインジケータ (赤) が点灯します

ご注意

電源スイッチをオフにしても、回路の一部には電流が流れ続けます (スタンバイインジケータが点灯して電源が供給されていることを示します)。長期間ご使用にならないときは、安全のため本機の電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

②MD挿入口

MDをここから入れます。

③EDIT (エディット/編集) キー

MDの編集をするとき、このキーを押して編集内容を選びます。

④▲ (イジェクト) キー

MDを取り出すときに押します。

⑤▶II (プレイ/ポーズ) キー

再生や録音をスタートするときに、このボタンを押します。

再生中または、録音中に押すと、一時停止します。もう一度押すと再スタートします。

⑥ジョグダイヤル (◀◀/▶▶)

好きな曲を瞬時に頭出ししたり、キャラクター※の選択、キャラクターの指定、ディバイドの微調整などいろいろな操作に使います。

※キャラクター：アルファベット、数字、カタカナなどの文字の意味

※キャラクターを指定するときは、このツマミを押してください。

⑦■ (ストップ) キー

再生を止めるとき、録音を止めるときなどに使います。

⑧CD CYNCHRO (CDシンクロ) キー

本機とCDプレーヤー (CDA-8) を連動させて録音するときに使います。

⑨REC (レック) キー

録音のときや、録音中に曲番号をつけるときなどに使います。

⑩DISPLAY (ディスプレイ) キー

キャラクターの選択や、表示部の表示切り替えに使います。

⑪INPUT (インプット/入力切替) キー

このキーで背面入力端子を選びます。押すたびに“Analog in” (LINE IN)、“Digital in 1” (OPTICAL IN 1)、“Digital in 2” (OPTICAL IN 2) に切り替わります。

⑫REPEAT (リピート) キー

このキーを押すと同じ曲を繰り返して聴くことができます。一度押すとMDの全曲を繰り返し、もう一度押すと1曲だけを繰り返し、さらにもう一度押すとリピートが解除されます。また、このキーは曲名やディスク名をつけるときの文字送りとして使います。

⑬SCROLL (スクロール) キー

曲名やディスク名をつけるときの文字送りとして使います。また、再生中、曲名を見たいときに押します。

⑭SET (セット) キー

消去や編集機能、入力したキャラクターなどを決定するときに使います。

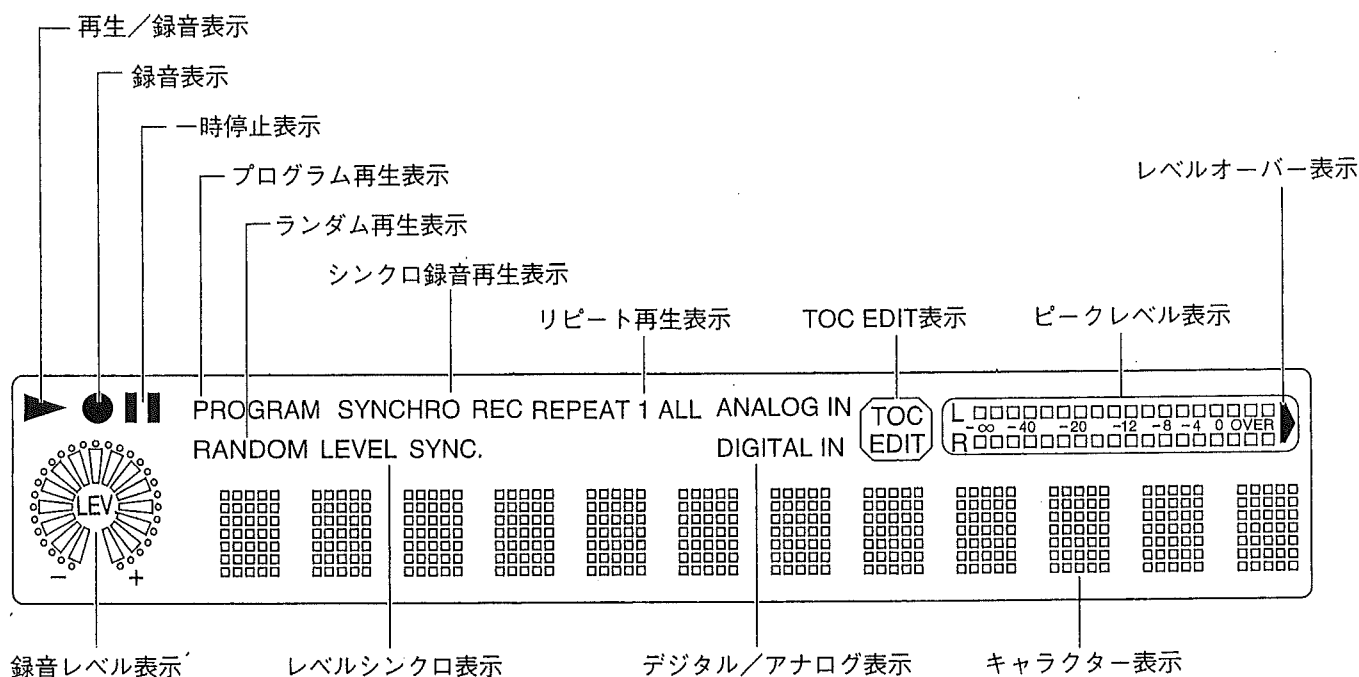
⑮受光部

リモートコントローラーから出された赤外線を受光するところです。

⑯表示部

ディスク名、曲名、曲番号、再生モード、録音モード、編集モードなど、いろいろな情報を表示するところです。

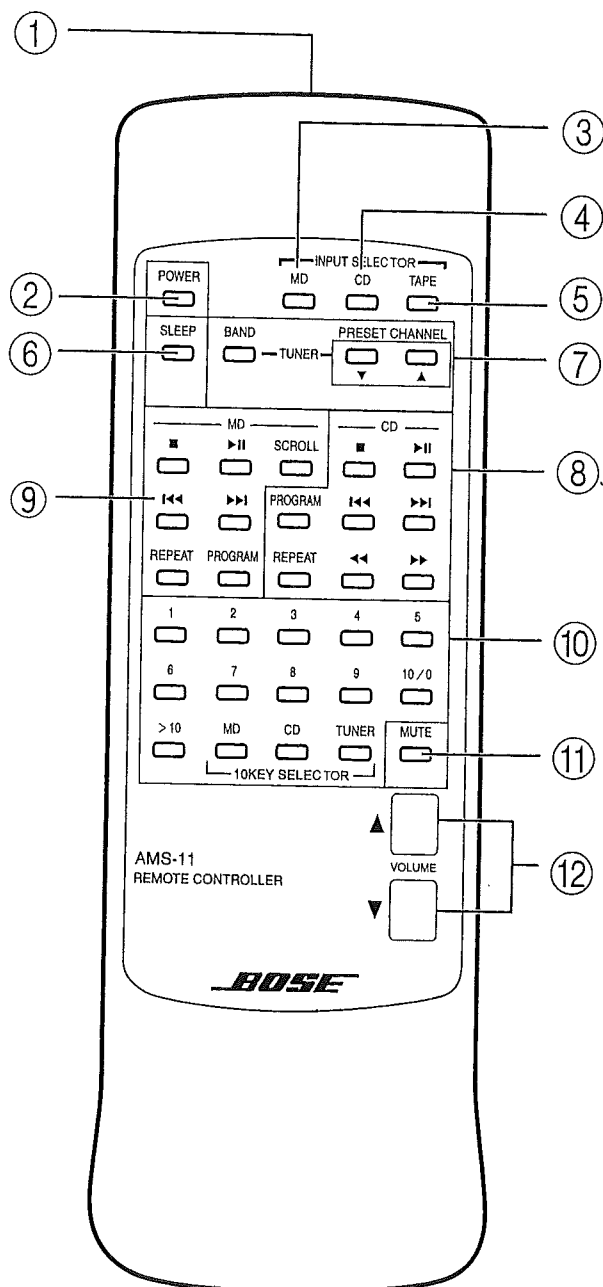
表示部の内容



各部の名称および機能 リモコン (AMS-11)

※本機 (MDA-8) にはリモコンは付属していません。

本機がAMS-1、AMS-2のステレオレシーバー (RA-8)、CDプレーヤー (CDA-8) とシステムコントロールケーブルで接続されているとき、ステレオレシーバー (RA-8) に付属のリモートコントローラーでシステム全体を操作できます。



特に説明のないボタンは、本体と同じ機能です。

①送信部

赤外線を発光するところです。

②POWER (パワー) キー

このボタンを押すと電源が入り、もう一度押すと電源

が切れてスタンバイインジケーターが点灯します。

③MDキー

ステレオレシーバー (RA-8) の入力をMDに切り替えるとき、このボタンを押します。

④CDキー

ステレオレシーバー (RA-8) の入力をCDに切り替えるとき、このボタンを押します。

⑤TAPE キー

ステレオレシーバー (RA-8) の入力をTAPEに切り替えるとき、このボタンを押します。

⑥SLEEP (スリープ) キー

ステレオレシーバー (RA-8) でスリープタイマーをセットするボタンです。

⑦チューナー操作ボタン

ステレオレシーバー (RA-8) を操作するボタンです。

●BAND (バンド) キー

FMまたはAMを切り替えるボタンです。

●PRESET CHANNEL (プリセットチャンネル) キー
ステレオレシーバー (RA-8) でプリセットされたFM局またはAM局をこのボタンで呼び出します。

⑧CDプレーヤー操作ボタン

CDプレーヤー (CDA-8) を操作するボタンです。

●▶|| (プレイ/ポーズ) キー

●■ (ストップ) キー

●◀||▶ (選曲) キー

●◀◀/▶▶ (サーチ) キー

●PROGRAM (プログラム) キー

●REPEAT (リピート) キー

⑨MDレコーダー操作ボタン

本機 (MDA-8) を操作するボタンです。

●■ (ストップ) キー

●▶|| (プレイ/ポーズ) キー

再生や録音をスタートするときまたは、一時停止するときはこのボタンを押します。録音中にタイトルの文字の種類を選ぶときに押します。

● **◀◀/▶▶ (選曲) キー**

再生する曲を選ぶときに使います。録音中にタイトルのキャラクターを選ぶときに押します。

● **SCROLL (スクロール) キー**

曲名を見るときに押します。録音中にタイトルを付けるときに押します。

● **REPEAT (リピート) キー**

繰り返して再生するときに使います。録音中にタイトルを付けるとき、カーソルの移動に使います。

● **PROGRAM (プログラム) キー**

再生のしかた (通常再生、プログラム再生、ランダム再生) を切り替えるときに使います。録音中にタイトルを付けるとき、カーソルの移動に使います。

⑩ **10キーオペレーションボタン**

(1~10/0、>10)

● **10キーセレクトボタン (MD/CD/TUNER)**

10キーオペレーションボタンで選択するまえに何の音源 (MD/CD/TUNER) にするか、最初にこのボタンを押します。5秒以内に、10キーオペレーションボタンで選択してください。

⑪ **MUTE (ミュート) キー**

ステレオレシーバー (RA-8) の音量を一時的に消すときに押します。オンにすると、ステレオレシーバー (R 11) の音量表示の外周が点滅します。もう一度押すと元の音量に戻ります (リモコンのみの機能で、本体では操作できません)。

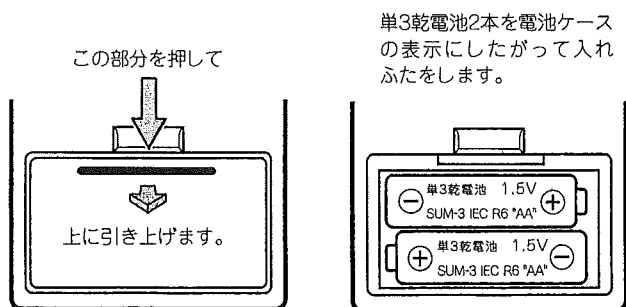
⑫ **VOLUME (音量) キー**

ステレオレシーバー (RA-8) の音量を調整します。

リモコンの取り扱いについて

リモコンに乾電池を入れてください

- ① リモコン裏側にある電池ケースのふたをあけます。
- ② 付属の乾電池2本をケース内の表示にしたがって入れます。
- ③ 電池ケースのふたをしめてください。



リモコンの取り扱いについて

リモコンの発光部をMDA-8の受光部に向けて操作してください。操作できる範囲は本体正面から左右に30°、約6m以内の範囲で、障害物が無く本体が見通せる位置です。

乾電池を取り扱うときの注意

乾電池の誤った使い方は、電池の寿命を短くしたり、液漏れや破裂の恐れがあり危険です。次の点にご注意ください。

※ (⊕) と (⊖) の向きは正しく入れてください。

※ 乾電池は絶対に充電しないでください。

※ 長期間使用しない時は、乾電池は取り出しておいてください。

※ 液漏れが起こった時は、ケース内をよくふき取り新しい乾電池と交換してください。

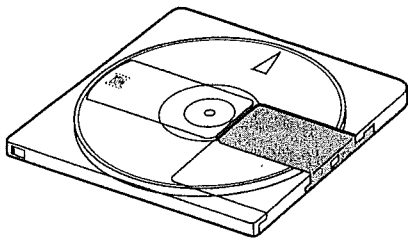
乾電池の交換

乾電池が消耗するとリモコンで操作できる距離が短くなったり、操作できなくなったりします。この場合は2本とも新しい乾電池と交換してください。

MD（ミニディスク）の取り扱いについて

◆MDについて◆

MD（ミニディスク）とは



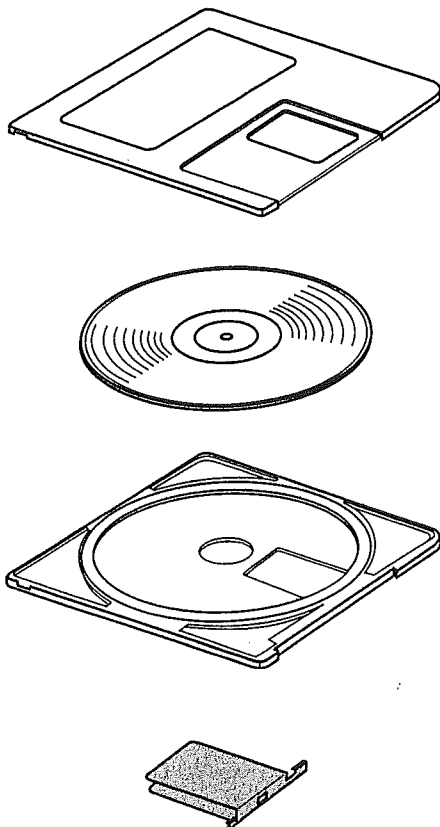
●小さいディスク

直径64mmのディスクを68×72×5mmの大きさのカートリッジに収めたもので、テープのように伸びたりからんだりする心配がなく、音質も劣化することもなく耐久性に優れています。また、カートリッジに収められているので、ほこり、キズ、指紋などもつきにくく取り扱いの簡単なディスクです。

●デジタル録音、再生

MDは、録音、再生ともデジタル方式です。そのため、ノイズや歪みが極めて少なくコンパクトディスク（CD）に迫る高音質を実現しています。

●MDの構造

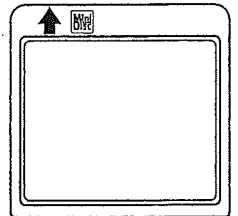


●MDの種類について

MDには再生専用と、録音・再生ができる2つのタイプがあります。

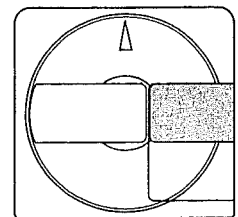
・再生専用MD

再生のみが可能で、市販の録音済みソフトはこのタイプです。CDと同じ光ディスクで光学ピックアップで信号を読み取り、再生します。また、このMDには編集は一切できません。



・録音用MD

何度でも録音・再生ができる「生ディスク」です。光磁気ディスクを使用しておりレーザー光と磁気で記録する磁界変調オーバーライト方式を採用しています。

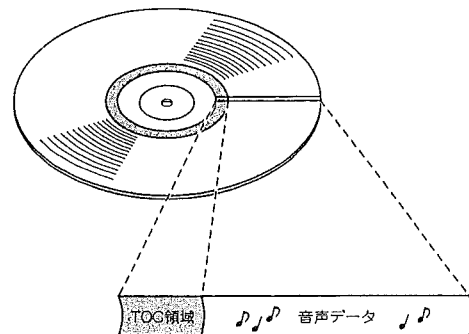


●ATRACについて

MDは、CDの約半分の直径でありながらCDとほぼ同じ長さの音楽を記録することができます。これは、新しく開発された聴覚心理学に基づく音声圧縮技術“ATRAC：Adaptive Transform Acoustic Coding（アダプティブ トランスフォーム アコースティック コーディング）”によるものです。この技術によって聴覚上の音質が損なわれることがないように音楽データを1/5に圧縮することができます。

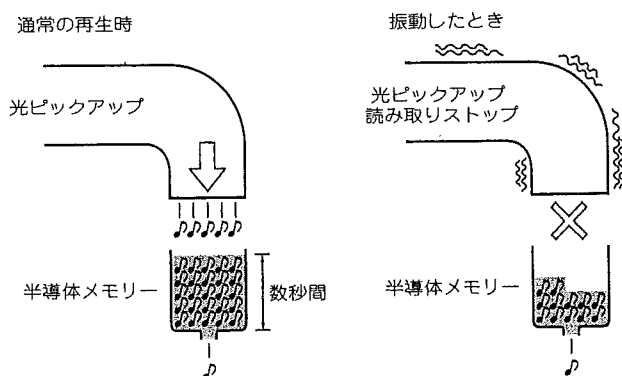
●素早い選曲（TOC）について

MDは、CDと同じように高速で目的の曲の頭出しができます。しかも、録音用のMDでは、頭出しのみならず録音した曲の編集も素早く行えます。これは、曲の情報を“ユーザーTOC：Table Of Contents”と呼ばれる音楽データとは別の領域で管理しているからです。MDはこのTOCデータを書き換えるだけで、曲を消去したり、曲順を変更することができます。



●音とびガードメモリー

MDは、ディスクから読み取られたデータを一瞬に再生するのではなくいったん半導体メモリーに蓄えておく音とびガードメモリーを採用しています。このため、外部からの衝撃や振動で光学ピックアップからの読み取り信号が途切れても、半導体メモリーのデータがなくなる前に光学ピックアップからの読み取りが再開すれば音楽が途切れることなく再生することができます。



●MD取り扱いについて

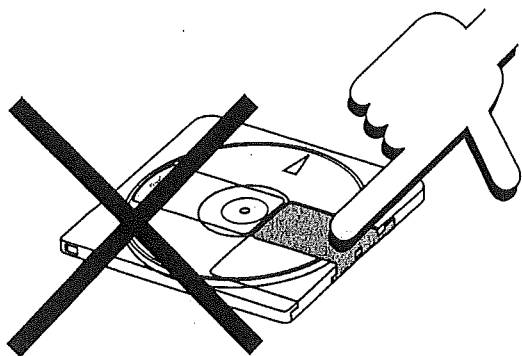
ミニディスクは、カートリッジに収められていますので、ゴミや指紋を気にせずに手軽に取り扱うことができますが、カートリッジが汚れていたり、そっていたりすると誤動作を起こす場合があります。いつまでも美しい音を楽しむために次のことにご注意ください。

- ・MDに直接触らないでください。

シャッターを手で開けないでください。無理に開けるとこわれます。

また、シャッターを開けてカートリッジ内のMDを直接触らないでください。

- ・定期的にカートリッジについたほこりやゴミを乾いた布でふき取ってください。



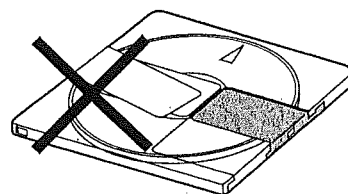
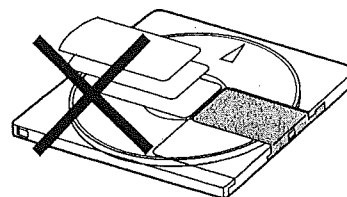
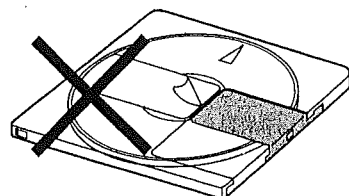
●MD保管上の注意

ミニディスクを次のような場所に置くことはさけてください。

- ・直射日光の当たる場所。
- ・暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- ・車の中などの高温になる場所。
- ・投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- ・極端に寒い場所。
- ・湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- ・カートリッジの中に、砂やほこりの入りやすい場所。

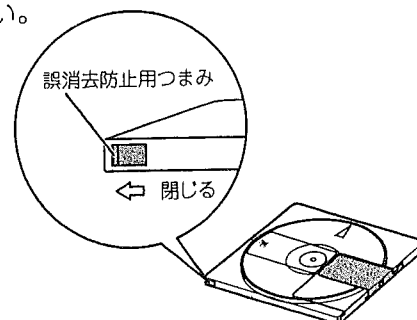
●MDにラベルを貼るときの注意

- ・ラベルは正しく貼り付けないと、ディスクが本体内部につまって取り出せなくなることがあります。



●大切な録音を消さないために

- ・録音用MDには、大切な録音を間違えて消さないための、誤消去防止用つまみがついています。録音や編集が終わったら、カートリッジ側面の誤消去防止つまみをスライドさせ開いた状態にしておきます。新しく録音や編集をしないときは、閉じた状態に戻してください。



システム上の制約について

ミニディスク（MD）システムは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行なわれます。

そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- 最大録音可能時間（60分、74分）に達していなくても“DISC FULL”が表示される。

MDシステムでは時間に関係なく、曲数がいっぱいになると“DISC FULL”の表示が出ます。255曲以上は録音できません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消すか、2枚目のディスクに分けて録音してください。

- 曲数も録音時間にも余裕があるのに“DISC FULL”が表示される。

曲中にエンファシス情報などの入切が多く行なわれると、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく“DISC FULL”の表示が出ます。

- 短い曲を何曲消してもディスクの残り時間が増えない。
ディスクの残り時間を表示するとき、8秒以下の部分は無視するので、短い曲を消しても時間が加算されないことがあります。

- つなぐことができない場合がある。

編集を行ってできた曲は、つなぐことができない場

合があります。

- ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間（60分、74分）に一致しない場合がある。

通常1クラスタ（約2秒）が最小単位で録音されます。それに満たないものでも2秒分のスペースを使います。このため実際に使用できる時間は少なくなります。

また、ディスクに傷があると、その部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

- 編集を行なった曲でサーチを行なうと、音が途切れることがある。

- 曲番が正確につかないことがある。

デジタル接続でCDを録音するとき、CDの録音内容によって短い曲ができる場合があります。

また、オートマーク機能で自動的にトラックマーキングを行った場合、録音するものの内容によっては、曲番が正確につかない場合があります。

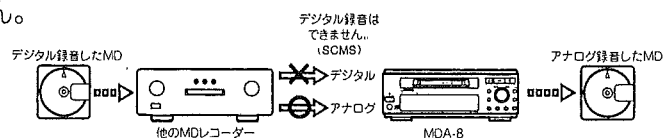
- “TOC Read”の表示がなかなか消えない。

購入したばかりの録音用ディスクを入れると、通常より“TOC Read”表示が長く表示されます。

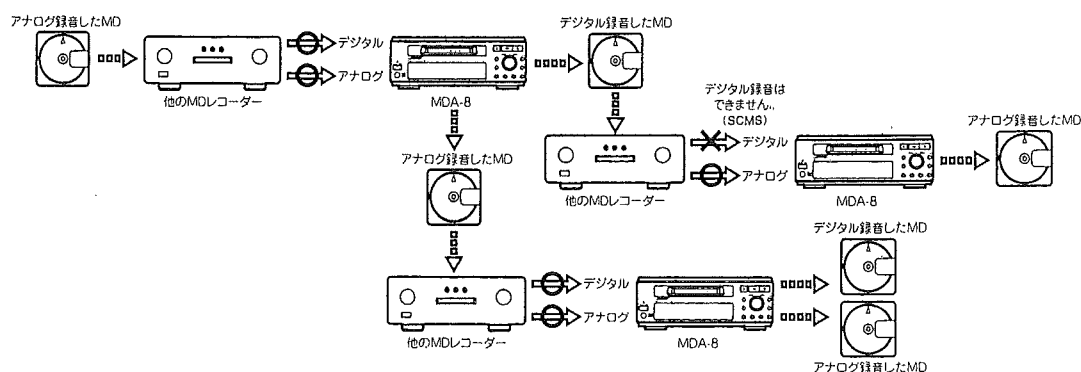
シリアルコピーマネージメントシステムについて

シリアルコピーマネージメントシステム（SCMS）は、著作権保護のため、各種のオーディオ機器間でデジタル録音ができるのは一世代だけに制限した規定です。

- ・CD（コンパクトディスク）、DAT（デジタルオーディオテープ）、MD（ミニディスク）ソフトからMDへデジタル録音できますが、一度デジタル信号をデジタル信号のまま録音したMDは、他のMDへデジタル信号のまま録音することはできません。



- ・アナログレコードやFM放送などを、本機で録音したMDから他のMDへデジタル信号のまま録音できますが、一度デジタル信号をデジタル信号のまま録音したMDから、他のMDへデジタル信号のまま録音することはできません。



MDを聴く

CDと同様に簡単な操作でMDを再生することができます。MDを入れ、▶II(プレイ/ポーズ)キーを押すだけで、1曲目から順番に再生されます。

- 1.ステレオレシーバー(RA-8)あるいは、他のプリメインアンプの電源を入れます。

ボーズ社AMSと組み合わせているとき、システムコントロールケーブルが接続されていると、RA-8の電源を入れるだけでシステム全体の電源が入ります。

- 2.ステレオレシーバー(RA-8)のINPUTSELECTORつまみで、他のプリメインアンプならば入力セクターをMDに合わせます。

- 3.ステレオレシーバー(RA-8)またはCDプレイヤー(CDA-8)とシステムコントロールケーブルが接続されていないか、他のプリメインアンプと組み合わせて使用するとき、本機のPOWER/STANDBY(パワー/スタンバイ)キーまたは、リモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。STANDBY(スタンバイ)インジケータが消え電源が入ります。表示部に“NO DISC”が表示されます。

- 4.MDを入れます。

聴きたい曲の入ったMDを正しい向きに合わせて入れます。

- ・ディスク名が登録されている時

“Welcom” → “TOC Readeing” → ディスク名
→ 収録曲数+収録時間

の順に表示されます。

- ・ディスク名が登録されていない時

“Welcom” → “TOC Readeing” → “No Name”
→ 収録曲数+収録時間

の順に表示されます。

5. ▶II(プレイ/ポーズ)キーを押します。

リモコンではMDキーを押します。1曲目から再生が始まります。

- 6.ステレオレシーバー(RA-8)やプリメインアンプで音量を調節します。

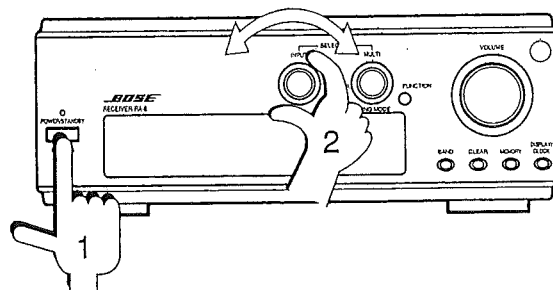
- 7.再生をやめるには。

■(ストップ)キーを押します。一時停止をするときは▶II(プレイ/ポーズ)キーを押します。もう一度▶II(プレイ/ポーズ)キーを押すと再び再生が始まります。

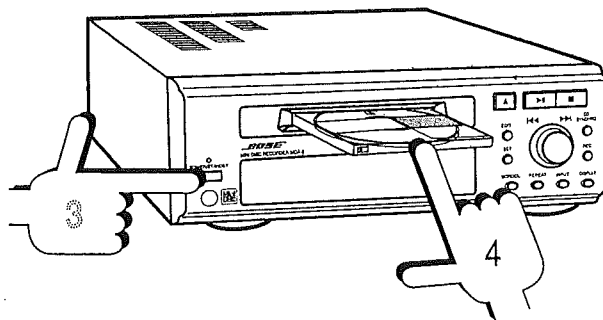
- 8.MDを取り出すには。

▲(イジェクト)キーを押すと表示部に“Eject”が表示されMDが手前に出てきます。再生中はプレイモード(プログラム再生、ランダム再生)の切り替えはできません。

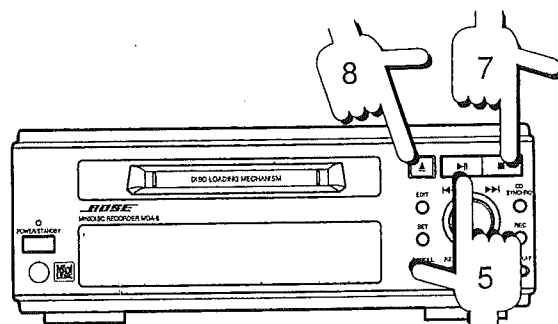
ステレオレシーバー(RA-8)



MD レコーダー(MDA-8)



MD レコーダー(MDA-8)



表示部の表示内容／表示切り替えについて

表示部にはMDの全曲数、全再生時間、残量時間、ディスク名などを表示します。

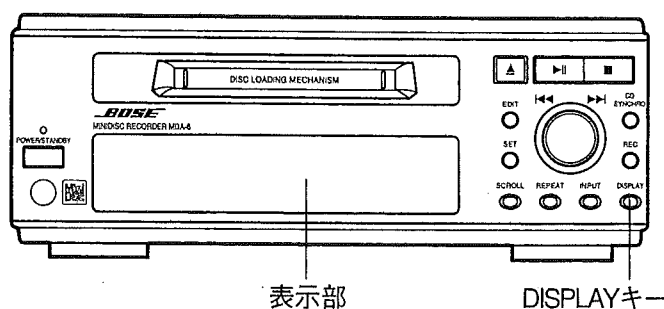
録音用MDに曲名やディスク名を付けるには、「曲名やディスク名を付ける」(35ページ) 参照。

全曲数や全再生時間、MDの残量時間、ディスク名を調べる

停止中、DISPLAY (ディスプレイ) キーを押します。
押すごとに、表示は次のように変わります。

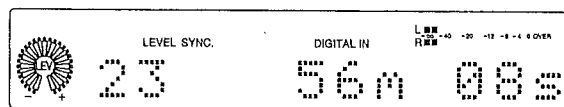
再生中の曲の残量時間や曲名を調べる

再生中、DISPLAY (ディスプレイ) キーを押します。
押すごとに、再生中の曲の残量時間または、曲名などが、次のように表示されます。



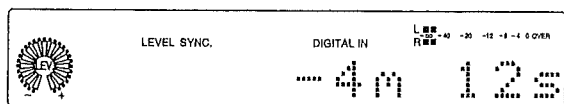
停止中

全曲数と全再生時間



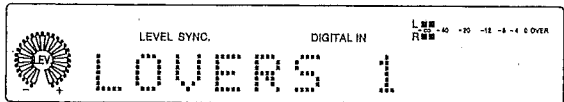
押す

MDの残量時間 (録音用MDのときのみ)



押す

ディスク名

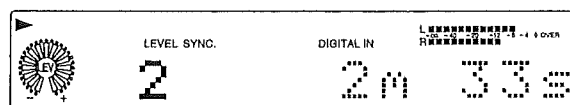


押す

MDソフトでは、ディスクの残量時間は表示されずにディスク名が表示されます

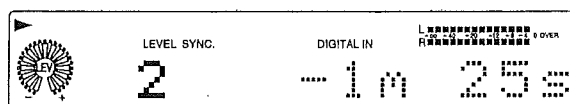
再生中

再生中の曲番号と再生時間 (通常表示)



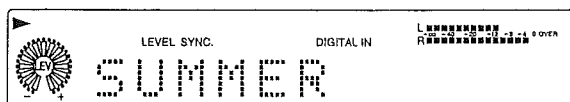
押す

再生中の曲番号と残量時間



押す

曲名



押す

曲名が入っているときは

- 再生中、いつでも曲名を見ることができます。SCROLL (スクロール) キーを押します。表示部に曲名が流れます。
- 曲名が流れているときに、SCROLL (スクロール) キーを押すと、曲名の流れが一時停止します。もう一度押すと流れます。

曲名が入っていないときは

- “No Name” が表示部に表示され、その後、再生時間が表示されます。

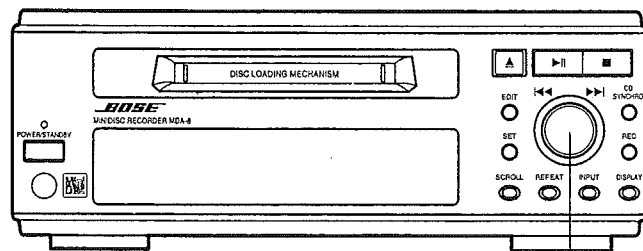
すばやく選曲する

好きな曲を瞬時に頭出しすることができます。また再生を早送り、早戻ししながら聴きたいところをさがすこともできます。

前後の曲の頭にとぶには

演奏中にジョグダイヤル (◀◀/▶▶) を次のクリック位置まで回します。

続けて回すと、回数に応じて前後の曲の頭にとぶことができます。

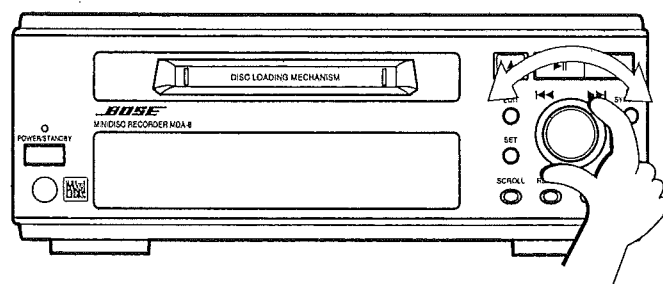


ジョグダイヤル
(◀◀/▶▶)

再生を早送り、早戻しするには

演奏中にジョグダイヤル (◀◀/▶▶) を押しながら次のクリック位置まで回します。右に回すと早送りされ、左に回すと早戻しされます。(このとき再生音が小さく聴こえます)。つまみをはなすと通常の演奏になります。

※早送り、早戻し中に音が途切れることがあります。



ジョグダイヤルを
押しながら回す

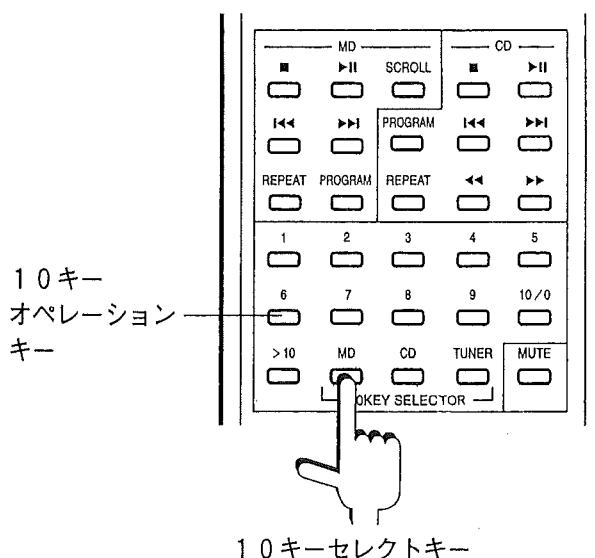
曲番号で選ぶ (ダイレクト選曲)

リモコンの10キーセレクトキーのMDキーを押し、続けて10キーオペレーションキーで、曲番号を指定すると、再生が始まります。10曲目を選ぶには10/0キーを押します。11曲以上を選ぶときは、最初に>10キーを押してから10の位の数、1の位の数という順に10キーオペレーションキー (1~10/0) を押してください。(0は10/0キーを使います)。

例1) 7曲目を選ぶ：10キーセレクトキーのMDキーを押します。続けて10キーオペレーションキーの7キーを押します。

例2) 25曲目を選ぶ：10キーセレクトキーのMDキーを押します。続けて>10キーを押してから、2キー、5キーの順に押します。

リモコン



※10キーセレクトキーを押してから、5秒以内に10キーオペレーションキーを押してください。

曲番号とは？

MDソフトでは、再生する順を示す番号があらかじめ1曲ごとに割りあてられています。これを「曲番号」といいます。

曲順を決めてから聴く (プログラム再生)

好きな曲を好きな順に並べて再生することができます。また、リピート再生と組み合わせて、繰り返して聴くこともできます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM (プログラム) キーを操作してプログラムモードにします。表示部に「PROGRAM」が表示され、プログラムモードになります。

2. 聴きたい曲の順番を決めます。

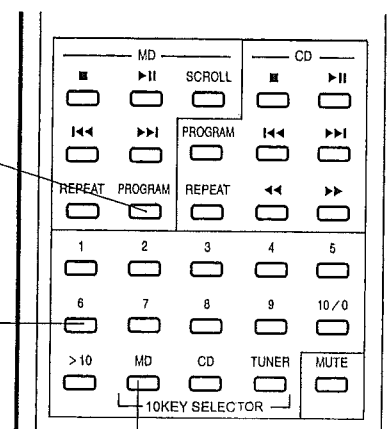
聴きたい順番で1曲ずつ選曲します。リモコンの10キーセレクトキーのMDキー押し、続けて10キーオペレーションキーで、曲番号を指定すると、順番にプログラムされ、最大25曲 (STEP1からSTEP25) までプログラムできます。25曲を超えてプログラムしようとする、表示部に“Program Full”が表示されます。

MDA-8用

リモコン

PROGRAM
キー

10キー
オペレーション
キー



10キーセレクトキー

※10キーセレクトキーを押してから、5秒以内に10キーオペレーションキーを押してください。

3. ▶II (プレイ/ポーズ) キーを押します。

選曲した順番に再生が始まります。

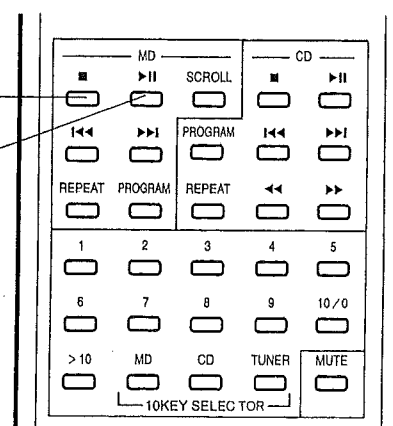
プログラムの内容を変更することはできません。

プログラムの曲数が25曲に満たないとき

最後に追加する：手順2を行います。

すべてを変更する：停止中に ■ (ストップ) キーを押します。

■ (ストップ) キー
▶II (プレイ/ポーズ) キー



プログラム再生を通常再生に戻すには

停止中にリモコンのPROGRAM (プログラム) キーを操作して表示部の「PROGRAM」表示を消します。

曲順をランダムに並べ換えて聴く (ランダム再生)

本機が曲順をランダム (順不同) に並べて再生します。次にどの曲がかかるかは、聴いてからの楽しみです。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM (プログラム) キーを操作してランダムモードにします。

表示部に「RANDOM」が表示され、ランダムモードになります。

2. ►II (プレイ/ポーズ) キーを押します。

ランダムに再生が始まります。すべての曲を1回ずつ再生すると終了します。1回のランダム再生で、同じ曲が何回も再生されることはありません。

ランダム再生中に曲の頭出しができます

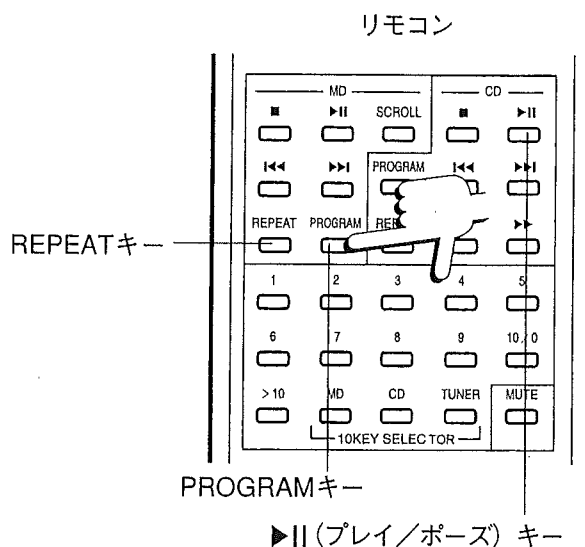
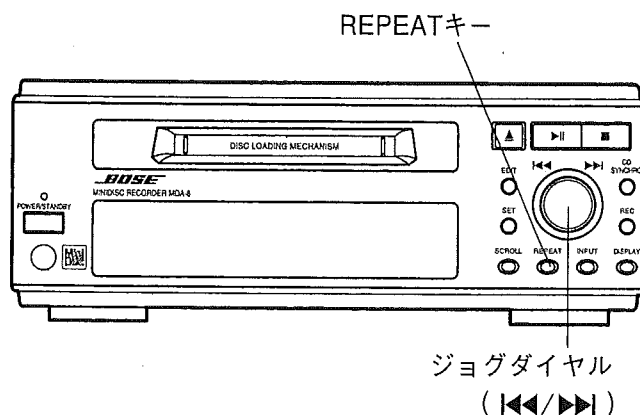
リモコンの ◀◀/▶▶ (選曲) キーを押します。本体では、ジョグダイヤル (◀◀/▶▶) を ◀◀ 側または、▶▶ 側に回します。

◀◀ 側に回す (◀◀ ボタンを押す) : 再生中の曲の頭に戻ります。すでに再生し終わった曲には戻りません。

▶▶ 側に回す (▶▶ ボタンを押す) : 次の曲をランダムに選んで再生します。

ランダム再生を通常再生に戻すには

停止中にリモコンのPROGRAM (プログラム) キーを操作して表示部の「RANDOM」表示を消します。



繰り返して聴く (リピート再生)

再生中の曲やディスクの全曲を繰り返して聴くことができます。

1曲リピート再生

1. リモコンのREPEAT (リピート) キーを押します。表示部に「REPEAT 1」が表示されるように、キーを押してください。本体のREPEAT (リピート) キーを操作しても、1曲リピートモードになります。1曲のみを繰り返し再生します。

1曲リピート再生を通常再生に戻すには

リモコンのREPEAT (リピート) キーを押して、「REPEAT 1」表示を消します。または、本体の本体のREPEAT (リピート) キーを操作して、表示部の「REPEAT 1」表示を消します。

全曲リピート再生

全曲を繰り返して聴けます。プログラムやランダム再生も繰り返して聴けます。

1. リモコンのREPEAT (リピート) キーを押します。表示部に「REPEAT ALL」が表示されるように、ボタンを押してください。本体のREPEAT (リピート) キーを操作しても、全曲リピートモードになります。全曲を曲番号順に繰り返し再生します。

プログラム再生時：プログラムした曲番号順に繰り返し再生します。

ランダム再生時：全曲を繰り返す毎に曲番号順をかえて再生します。

全曲リピート再生を通常再生に戻すには

リモコンのREPEAT (リピート) キーを押して「REPEAT ALL」表示を消します。または、本体のREPEAT (リピート) キーを操作して、表示部の「REPEAT ALL」表示を消します。

録音するまえに

録音するときのご注意

“Protected” が表示されたときは：

MDが誤消去防止状態になっています。MDの誤消去防止用つまみをずらして孔が閉じた状態にすれば録音できます（「MDの取り扱いについて」15ページを参照）。

“Din Unlock” が点滅したときは：

- ・ INPUT（インプット/入力切替）キーで選択したデジタル音源が正しく接続されていません。音源を正しく接続してください。
- ・ 音源の電源が入っていません。音源の電源を入れてください。

録音したい音源によって曲番号の付きかたが異なります。

- ・ CDまたはMDが音源で、INPUT（インプット/入力切替）キーをデジタルOPTICAL 入力（入カー1、入カー2）に合わせて録音するとき：

曲番号は、音源のCDやMDと同じように付きます。ただし、次のようにして録音した部分にたいして、曲番号が1つしか付かないことがあります。

- ・ 同じディスクの同じ曲を繰り返して（1曲リピートなどで）録音した部分。
- ・ 違うディスクの同じ曲番号を続けて録音した部分。

また、MDが音源のときは、4秒以下の曲には曲番号が付かないことがあります。

- ・ 表示部に「LEVEL SYNC.」が点灯していないときに、DATや衛星放送をデジタル録音したり、外部の機器からの音声をアナログ録音する場合：

録音した部分全体で1曲として扱うため、曲番号は1つしか付きません。曲番号は、録音中または録音後に好きなところで付けることができます。また、アナログ録音、DAT や衛星放送などのデジタル録音中でも「LEVEL SYNC.」が点灯していれば自動で付けることができます（「録音中に曲番号を付ける」26ページ、「曲を分ける」31～32ページを参照）。

- ・ DATや衛星放送などが音源で、INPUT（インプット/入力切替）キーをデジタル入力に合わせて録音するときは、入力信号のサンプリング周波数が変わると、曲番号が自動的に変わります。

“TOC” が点滅しているときは――

録音した内容をMDに記録しているので、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機をゆらしたりしないでください。正しく録音されないことがあります。録音の後にすぐに電源プラグを抜くと、録音した内容を記録できません。

本機はシリアルコピーマネージメントシステムに準拠しています。

デジタル録音したMDをさらにデジタル録音することはできません（16ページを参照）。

MDに録音する（アナログ録音／デジタル録音）

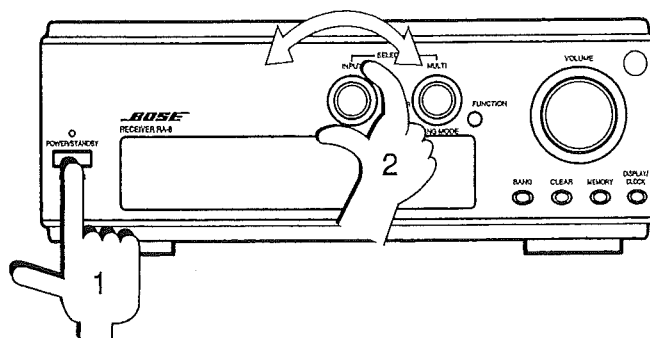
録音用のMD[未録音のMD（Blank Disc）または、録音できる残量時間のあるMD]を用意します。

1. 録音したい音源とステレオレシーバー（RA-8）の電源を入れます。

ボーズ社AMSと組み合わせているとき、システムコントロールケーブルが接続されていると、RA-8の電源を入れるだけで、システム全体の電源が入ります。

2. ステレオレシーバー（RA-8）はINPUT SELECTORつまみを、他のプリメインアンプならば入力に録音したい音源に合わせます。

ステレオレシーバー(RA-8)

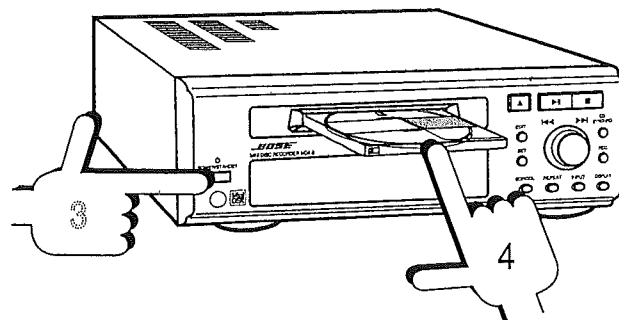


3. ステレオレシーバー（RA-8）またはCDプレーヤー（CDA-8）とシステムコントロールケーブルが接続されていないか、他のプリメインアンプと組み合わせて使用するときには、本機のPOWER/STANDBY（パワー／スタンバイ）キーまたは、リモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。STANDBY（スタンバイ）インジケータが消え電源が入ります。表示部に“NO DISC”が表示されます。

4. 録音用MDを入れます。

録音用のMDを正しい向きに合わせて入れます。途中で録音してあるMDのときは、録音済みの部分の終わりから続けて録音されます。

MDレコーダー(MDA-8)



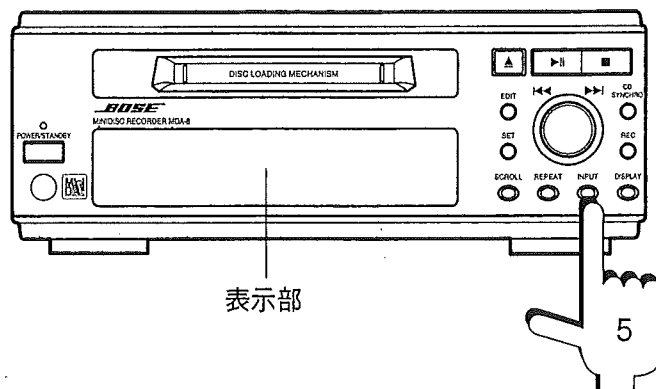
5. 本機のINPUT（インプット／入力切替）キーを録音したい音源に合わせます。

音源がつながっている端子

INPUT（インプット／入力切替）キーの操作と表示部の表示

キーを押すたびに

LINE IN（ラインイン）…………… “Analog in” + 「ANALOG IN」
 OPTICAL IN 1（光デジタル入力端子1）…………… “Digital in 1” + 「DIGITAL IN」
 OPTICAL IN 2（光デジタル入力端子2）…………… “Digital in 2” + 「DIGITAL IN」
 と切り替ります。



次ページへ続く

MDに録音する（アナログ録音のレベル調整）

6.REC（レック）キーを押します。

まだ録音は始まりません（録音待機状態）。表示部に
●IIが表示され、曲番号、NEWと残量時間が交互に点滅します。

7.手順5で「ANALOG IN」に合わせたときは、録音レベルを調整します。

デジタル録音では、録音レベルを調整できません。録音したい音源の一番大きい音（再生レベルの一番高い）部分を演奏し、ジョグダイヤル（◀◀/▶▶）で、録音レベルを調整します。再生レベルの一番高いときに、表示部のピークレベルメーターのレベルオーバー表示（OVER ▶）赤色が点灯しないように合わせます（時々点灯する程度なら実用上、問題ありません）。録音レベルの調整が終わったら、いったん音源の再生を止めます。

8.▶II（プレイ／ポーズ）キーを押します。

本機の録音が始まります。

9.録音したい音源の演奏を始めます。

録音を止めるときは■（ストップ）キーを押します。

録音した曲を確認するときは

曲番号を指定しなくても、今録音した曲の最後からすぐに再生して確認できます。

1.■（ストップ）キーを押して録音を止めた後（曲番号が点滅中）、すぐに▶II（プレイ／ポーズ）キーを押します。今回録音を始めた最後の曲が再生されます。

録音を止めた後、MDの最初から再生するとき

1.録音を止めた後、もう一度■（ストップ）キーを押します。

2.▶II（プレイ／ポーズ）キーを押します。MDの最初の曲から再生します。

こんなときは？

録音を一時停止する…………▶II（プレイ／ポーズ）キーを押します

（再び録音を始めるときは、もう一度▶II（プレイ／ポーズ）キーを押します）。

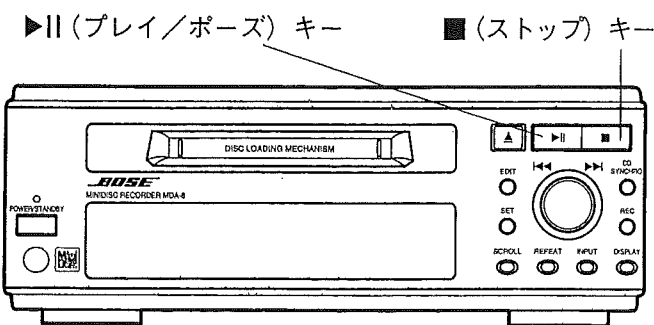
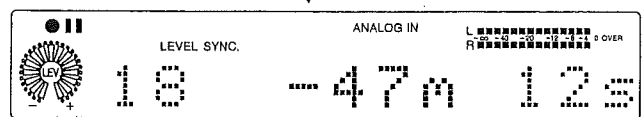
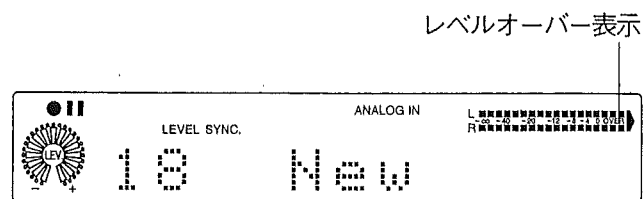
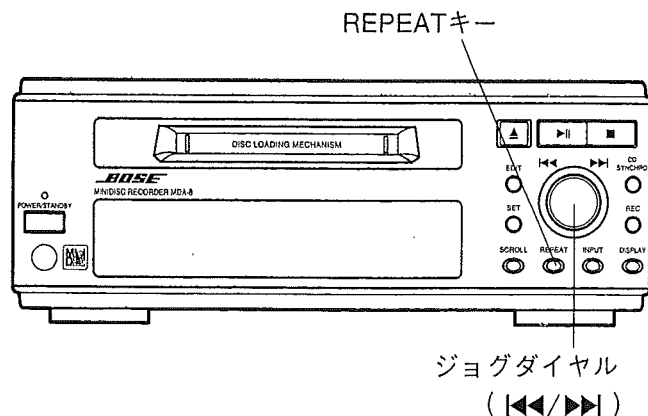
MDを取り出す…………▲（イジェクト）キーを押します。

ご注意

※録音中は、本機をゆらしたりしないでください。また、INPUT（インプット/入力切替）キーを操作しないでください。

※本機の電源を切ったり、電源プラグをコンセントから抜いたりしたときは、次に電源を入れると、最後の録音モードの設定（アナログ入力またはデジタル入力）が記憶されています。

※録音を一時停止すると、曲番号は変わります。例えば、4曲目を録音中に一時停止したあと、再び録音を始めると、そこからは5曲目として録音されます。



録音するときに便利な機能

MDの残り時間を調べる（残量時間表示）

本体のDISPLAY（ディスプレイ）キーを押すと、次のように表示部の表示が切り替わります。

停止中

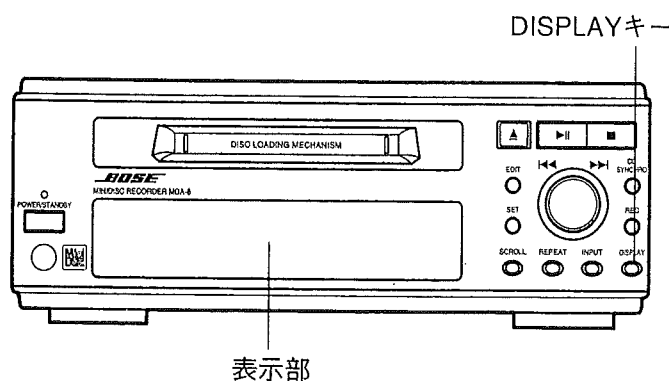
→ 収録曲数と収録時間

↓
残量時間

↓
ディスク名

録音中

押すと残量時間が表示されます。



オートカット機能／スマートスペース機能（長い無音部分を自動的に約3秒にします）

オートカット機能

INPUT（インプット/入力切替）キーをデジタル入力に合わせて（デジタル入力端子につないである音源の）録音中、30秒以内の無音部分が続いたので、本機は録音一時停止状態になりました。表示部のキャラクター表示部に“Auto Cut”が約2秒間点灯します。このとき、曲間の約3秒を残して、あとの無音部分は自動的に消えます。

スマートスペース機能

INPUT（インプット/入力切替）キーをデジタル入力に合わせて（デジタル入力端子につないである音源の）録音中、30秒以内の無音部分が続いたあと、信号が再び入力されました。このとき、本機は録音状態のままで曲間の約3秒を残して、あとの無音部分を自動的に消して録音します。表示部のキャラクター表示部に“Smart Space”が約2秒間点灯します。ただし、この曲間の約3秒の前後で、曲番号が変わらないことがあります。

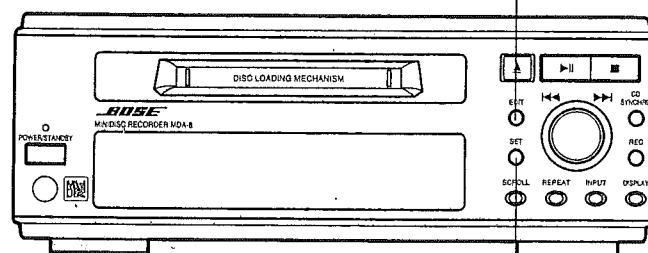
オートカット機能／スマートスペース機能を使うには 録音待機状態のときに操作します

1. 録音待機中“S.Space ?”が表示されるまでEDIT（エディット/編集）キーを押します。
2. SET（セット）キーを一度押すと、“S.Space ON ?”が点灯しますので、続けてもう一度SET（セット）キーを押してください。

オートカット機能／スマートスペース機能を中止するときは

1. 録音待機中“S.Space ?”が表示されるまでEDIT（エディット/編集）キーを押します。
2. SET（セット）キーを一度押すと、“S.Space ON ?”が点灯しますので、続けてEDIT（エディット/編集）キーを押します。“S.Space OFF”が表示されます。

EDITキー



SETキー

ご注意

※オートカット機能とスマートスペース機能のどちらか一方のみを働かせるようにすることはできません。

※本機の電源を切ったり、電源プラグをコンセントから抜いたりしたときは、次に電源を入れると、最後のオートカット機能とスマートスペース機能の設定（S.Space ON または OFF）が記憶されています。

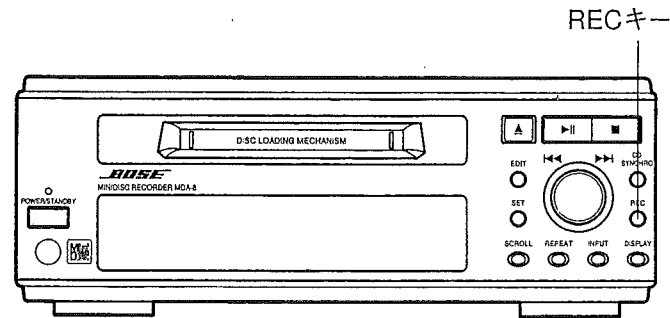
※INPUT（インプット/入力切替）キーをアナログ入力に合わせたときは、オートカット機能とスマートスペース機能は OFF になります。ON の設定はできません。

録音中に曲番号を付ける（マーキング機能）

録音中に曲番号を付けるには、自分で付ける方法と自動的に付ける方法の2通りがあります。曲番号を付けておくと、再生時の頭出しをするときや、編集するときなどに便利です。

自分で付ける（マニュアルマーク）

- 1 録音中いつでも曲番号を付けることができます。録音中、好きなところでREC（レック）キーを押します。（曲番号が繰り上がります）。



自動的に付ける（オートマーク）

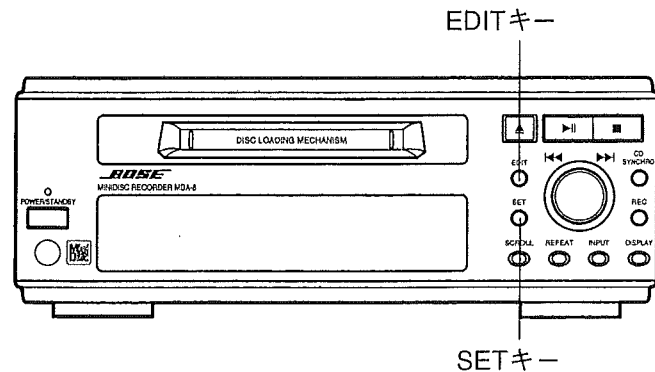
- ・録音したい音源がCDまたはMDで、INPUT（インプット/入力切替）キーをデジタル入力に合わせてある場合、曲番号は自動的に付きます。
- ・上記以外の場合

表示部の「LEVEL SYNC.」が点灯していると、曲番号は、録音したい音源の入力信号が、ある一定のレベル以下になって、次にそのレベルを超える入力信号が入ってきたときに、自動的に付きます。この機能を使用する場合は、次の操作をしてください。

- 1.録音待機中 “Level Sync ?” が表示されるまでEDIT（エディット／編集）キーを押します。
- 2.SET（セット）キーを一度押すと、“Level Sync ON ?” が点灯しますので、続けてもう一度SET（セット）キーを押してください。

オートマーク機能を中止するときは

- 1.録音待機中 “Level Sync ?” が表示されるまでEDIT（エディット／編集）キーを押します。
- 2.SET（セット）キーを一度押すと、“Level Sync ON ?” が点灯しますので、続けてEDIT（エディット／編集）キーを押します。“Level Sync OFF” が表示されます。



録音後に曲番号を付けることができます

編集操作で曲を分けると、曲番号が1番ずつ加算されて記録されます（「曲を分ける」31～32ページを参照）。

ご注意

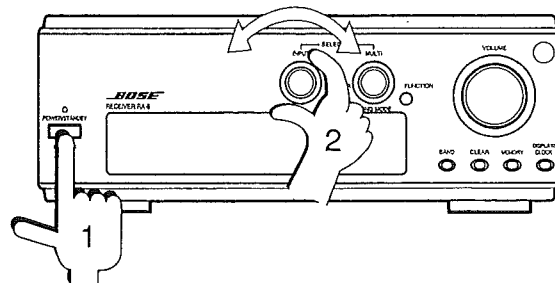
※本機の電源を切ったり、電源プラグをコンセントから抜いたりしたときは、次に電源を入れると、最後のトラックマーキング機能の設定（Level Sync ONまたはOFF）が記憶されています。

シンクロ録音する (CDシンクロ録音)

ボーズ社アメリカンサウンドシステムシリーズAMS-1、AMS-2（平成11年1月現在）のCDプレーヤー（CDA-8）と接続すると、簡単にCDの音を録音できます。CDプレーヤーをデジタル入力端子につないでも、アナログ入力端子につないでも、また、“Level Sync ON” または、“Level Sync OFF”（26ページ参照）にかかわらず自動的に曲番号が付きます。

ステレオレシーバー (RA-8)

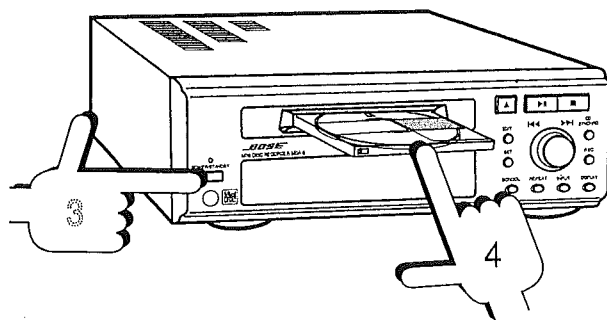
- 1.ステレオレシーバー（RA-8）の電源を入れます。
このときシステムコントロールケーブルが接続されていると、RA-8の電源を入れるだけでシステム全体の電源が入ります。



- 2.ステレオレシーバー（RA-8）のINPUT SELECTOR つまみで、CDを選びます。

- 3.ステレオレシーバー（RA-8）またはCDプレーヤー（CDA-8）とシステムコントロールケーブルが接続されていない場合は本機のPOWER/STANDBY（パワー/スタンバイ）キーまたは、リモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。STANDBY（スタンバイ）インジケータが消え電源が入ります。表示部に“NO DISC”が表示されます。

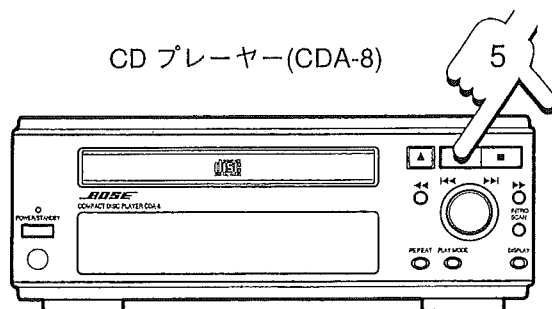
MD レコーダー (MDA-8)



- 4.録音用MDを入れます。
録音用のMDを正しい向きに合わせて入れます。途中まで録音してあるMDのときは、録音済みの部分の終わりから続けて録音されます。

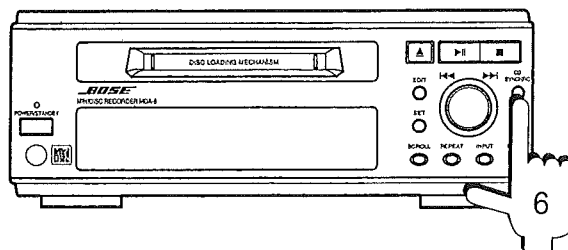
- 5.CDプレーヤーで、MDに録音したい再生方法（通常の再生、プログラム再生、ランダム再生）を選んでおきます。

CD プレーヤー (CDA-8)



- 6.本機のCD SYNCHRO（CDシンクロ）キーを押します。表示部に●IIおよび、シンクロ録音表示「SYNCHRO REC」が点灯し、曲番号、NEWと残量時間が交互に点滅し、本機は録音待機状態に、CDプレーヤーは一時停止状態になります。

MD レコーダー (MDA-8)



次ページへ続く

シンクロ録音する (CDシンクロ録音)

7.本機のINPUT (インプット/入力切替) キーを録音したい音源に合わせると、CDシンクロ録音専用のセクター位置を記憶します。シンクロモードを解除すると元の状態にもどります。

音源がつながっている端子

INPUT (インプット/入力切替) キーの操作と表示部の表示

キーを押すたびに

LINE IN (ラインイン) “Analog in” + 「ANALOG IN」

OPTICAL IN 1 (光デジタル入力端子1) “Digital in 1” + 「DIGITAL IN」

OPTICAL IN 2 (光デジタル入力端子2) “Digital in 2” + 「DIGITAL IN」

と切り替ります。

手順7で「ANALOG IN」に合わせたときは、録音レベルを調整しておきます。(「アナログ録音のレベル調整、手順6～7」24ページ) 参照。

8.CDプレーヤーの ▶|| (プレイ/ポーズ) キーを押します。

表示部の ●|| 表示が ▶● に変わり、本機で録音が始まり、CDプレーヤーで再生が始まります。録音中の曲番号と、今録音している曲の録音された時間が表示されます。

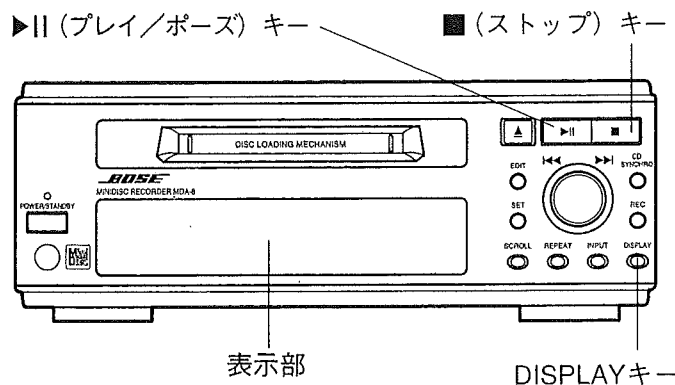
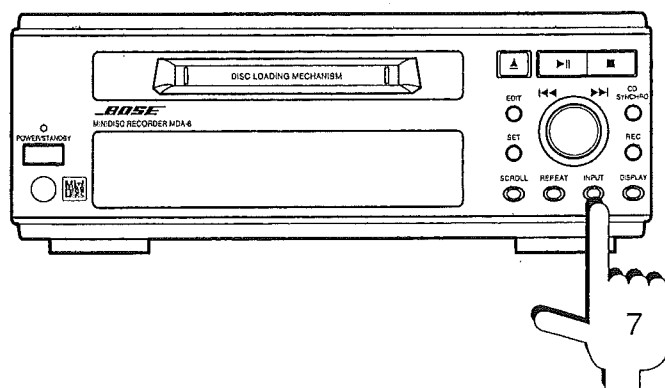
9.録音を終わらせたいところで本機の ■ (ストップ) キーを押します。CDプレーヤーの再生も停止します。

シンクロ録音を一時停止するには

本機の ▶|| (プレイ/ポーズ) キーを押します。再び録音を始めるときは、もう一度 ▶|| (プレイ/ポーズ) キーを押します。録音を一時停止すると、曲番号は変わります。

MDの残量時間を確かめるには

DISPLAY (ディスプレイ) キーを押します。



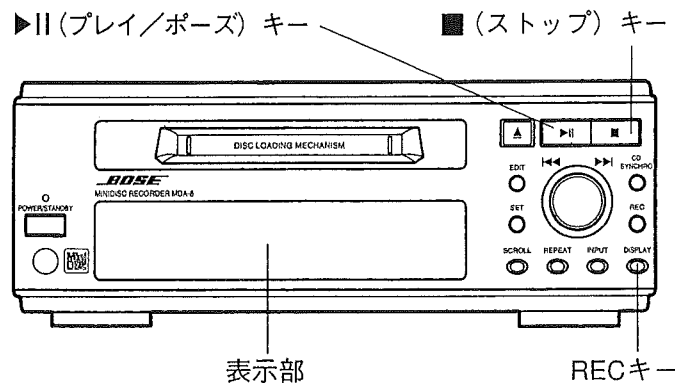
録音した曲を消しながら録音する (オーバーライト録音)

1.再生中に、上書きしたいところで、▶|| (プレイ/ポーズ) キーを押します。再生が一時停止状態になります。

2.REC (レック) キーを押します。曲番号が1つ繰り上がって表示部に“Over Write”が表示されます。

3. ▶|| (プレイ/ポーズ) キーを押して録音します。

録音を止めるときは ■ (ストップ) キーを押します。



曲を消す（1曲消去／全曲消去）

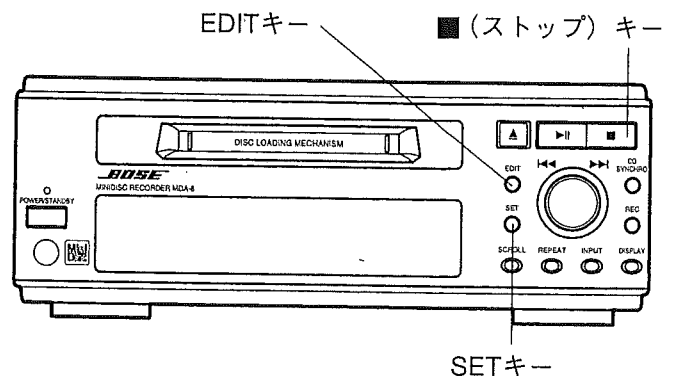
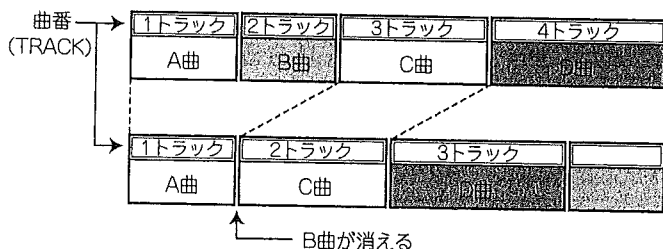
録音したディスクを消すには、次の2通りがあります。

- ・指定した曲番号の内容のみを消す（1曲消去）。ディバイド機能やコンバイン機能を使って1曲ごとに曲番号を割りあてておけば、消したい曲番号で指定できます。
- ・録音した内容すべてを消す（全曲消去）。

1曲ずつ消す（1曲消去）

曲番号を指定するだけで、1曲をまるごと消せます。消した曲番号には次の曲番号が順に繰り上がり、自動的に改めて連続した曲番号が付きます。たとえば、曲番号1を消すと、元の曲番号2が1に繰り上がります。2曲以上消すときは、途中の曲番号が変わらないように、後ろの曲から消すことをおすすめします。カセットテープのように録音済みの部分を消しながら録音する必要はありません。

例) B曲を消すとき



1. 消したい曲の曲番号が表示されるまで、ジョグダイヤル（◀◀/▶▶）を回します。
2. “Erase ?” が表示されるまで、EDIT（エディット／編集）キーを押します。表示部の「TOC EDIT」表示（赤色）が点灯します。
3. SET（セット）キーを押します（1回目）。表示部に “Erase ??” が表示されます。
4. SET（セット）キーを押します（2回目）。表示部に “Complete” が数秒間表示されて消えると、手順1で選んだ曲が消えます。
5. 続けて曲を消すときは手順1～4を繰り返します。

曲を消すのを途中でやめるときは

■（ストップ）キーを押します。または、ジョグダイヤル（◀◀/▶▶）を回して曲番号を変え、表示部の “Erase ?” 表示を消します。

ご注意

※手順2で、表示部に “Protected” が表示されたときは、ディスクが誤消去防止状態になっています。（「MDの取り扱いについて」15ページを参照）。

次ページへ続く

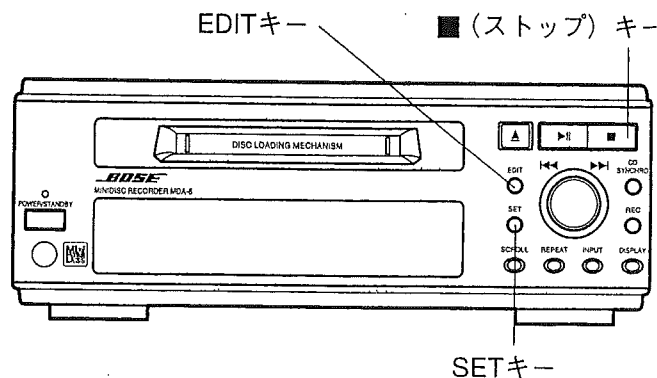
曲を消す（全曲消去）

一度に、MDの全曲と全曲名、ディスク名（MDに記録されているすべての内容）を消すことができます。いったん消すと元に戻せないの、確認してから行ってください。

1. 停止中、“All Erase ?” が表示されるまで、EDIT（エディット／編集）キーを押します。表示部の「TOC EDIT」表示（赤色）が点灯します。
2. SET（セット）キーを押します（1回目）。表示部に“All Erase ??”が表示されます。
3. SET（セット）キーを押します（2回目）。表示部に“Complete”が数秒間表示されて消えると、“Blank Disc”が表示されます。

全曲を消すのを途中でやめるときは

EDIT（エディット／編集）キーまたは、■（ストップ）キーを押します。



ご注意

※手順1で、表示部に“Protected”が表示されたときは、ディスクが誤消去防止状態になっています。（「MDの取り扱いについて」15ページを参照）。

編集する 編集するときの注意／曲を分ける (ディバイド機能)

編集機能では、録音したディスクの好きなところで頭出しができるように、曲を途中から分けたり、連続した2つの曲をつないだりして録音後の手直しができる、曲を分ける「Divide」ディバイド機能、曲をつなぐ「Combine」コンバイン機能、また、曲を移動する「Move」ムーブ機能、曲名やディスク名を付ける「Name in」タイトル機能などがあります。

編集するときの注意

“Protected” が表示されたときは：

ディスクが誤消去防止状態になっています。編集ができません。誤消去防止ツマミをずらして孔が閉じた状態にしてから編集してください（「MDの取り扱いについて」15ページを参照）。

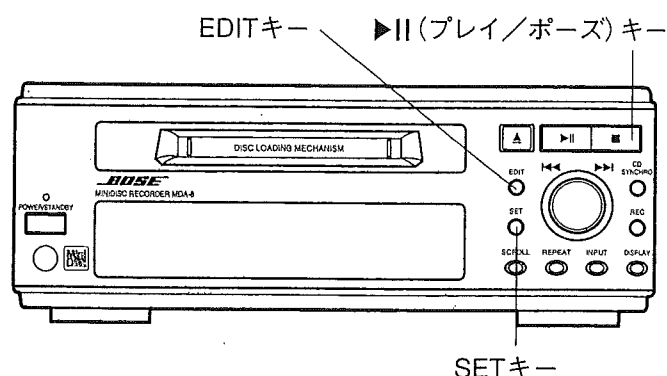
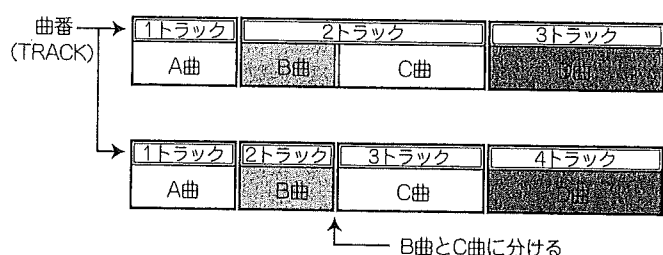
編集を行った後は、表示部の「TOC EDIT」が点灯しています

ディスクを取り出そうとするか、電源を切ろうとすると、“TOC Writing” が点滅し、編集した内容をディスクに記録します。“TOC Writing” が点滅中は、編集した内容を記録しているので、本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。

曲を分ける (ディバイド機能)

録音後に1曲を2つの曲に分け、新たに頭出しのための曲番号を記録します。アナログ録音したMDなどで1つの曲番号に複数の曲が録音されている場合や、曲の途中で頭出し点をつくるときに使います。分けた曲以降の曲番号は順に1番ずつ加算され、自動的に改めて連続した曲番号が付きます。

例：2曲目をB曲とC曲の2つに分けるときの



- 1.再生中、曲を分けるところで、▶|| (プレイ/ポーズ) キーを押します。再生が一時停止状態になります。
2. “Divide ?” が表示されるまで、EDIT (エディット/編集) キーを押します。
- 3.SET (セット) キーを押します (1回目)。表示部に “Rehearsal” と “Position ok ?” が交互に表示され、分けるところを繰り返し再生します。
- 4.分けるところを正しく再生していないときは、EDIT (エディット/編集) キーを押します。ディバイド機能が解除されて、通常再生に戻ります。分けるところを正しく再生しているときは、手順7の操作に移ります。

次ページへ続く

曲を分ける (ディバイト機能)

5.手順1~3を行い、繰り返し再生される音を聴きながらジョグダイヤル (◀◀/▶▶) を回して、分けるところを少しずつずらします。表示部に “Rehearsal” と “Position ok ?” が交互に表示され、分けるところを繰り返し再生します。その曲 (1曲) の中だけで最大-128ステップから+127ステップまで移動できます。(1ステップは約0.06秒です)。

6.分けるところを再生していないときは手順5を繰り返します。

7.分けるところを正しく再生しているときは、SET (セット) キーを押します。表示部に “Complete” が表示されて消えると、曲が分かります。分かれ目の次の曲の頭から再生が始まります。分かれた曲に曲名がついているときは、後の曲には曲名が付きません。

曲を分けるのを途中でやめるときは—

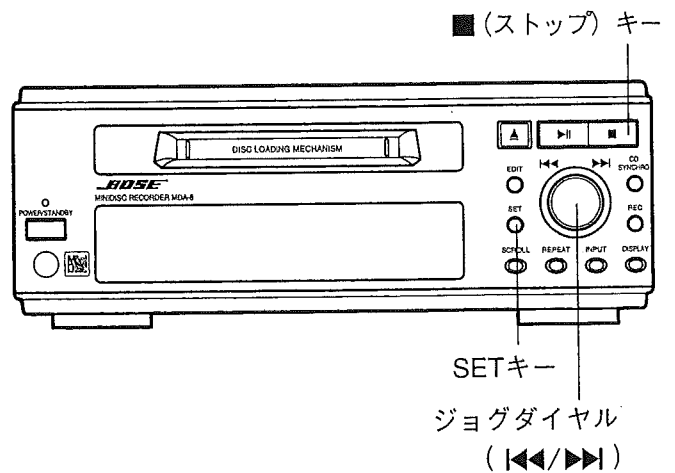
EDIT (エディット/編集) キーまたは、■ (ストップ) キーを押します。

1曲分のみ、曲を元に戻せます—

コンバイン機能を使って曲をつなぎます (「曲をつなぐ」33ページ参照)。

録音中も曲は分けられます—

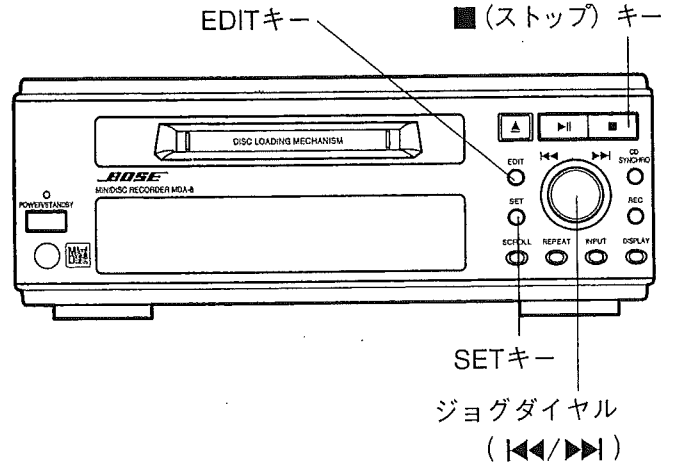
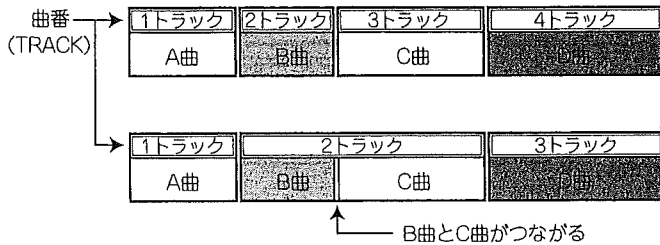
マーキング機能を使って曲を分けます (「録音中に曲番号を付ける」26ページ参照)。



曲をつなぐ (コンバイン機能)

連続した2つの曲をつないで1曲にまとめます。いくつかの曲を続けて聴けるようにしたり、何度も停止してコマ切で録音したものを1つにまとめたりするときなどにお使いください。

例：B曲とC曲をつなぐとき



1. つなぐ曲の曲番号が表示されるまで、ジョグダイヤル (◀▶) を回します。表示部に 表示された曲を前の曲とつなぎます。例えば、3曲目と4曲目をつなぐときは、4曲目を表示させます。
2. “Combine ?” が表示されるまで、エディット ボタン (edit) を押します。
3. SET (セット) キーを押します。表示部に “Rehearsal” と “Track ok ?” が交互に表示され、つなぎ目の部分 (つなぎ前の曲の終わりと後ろの曲の初め) を繰り返し再生します。
4. つなぎ目の部分を正しく再生していないときは、EDIT (エディット/編集) キーまたは、■ (ストップ) キーを押して手順1からやりなおします。つなぎ目の部分を正しく再生しているときは、手順5の操作に移ります。
5. つなぎ目の部分を正しく再生しているときはSET (セット) キーを押します。表示部に “Complete” が表示されて消えると、曲がつながります。つないだ2曲の両方に曲名がついているときは、後の曲名は消えます。

曲をつなぐのを途中でやめるには

EDIT (エディット/編集) キーまたは、■ (ストップ) キーを押します。

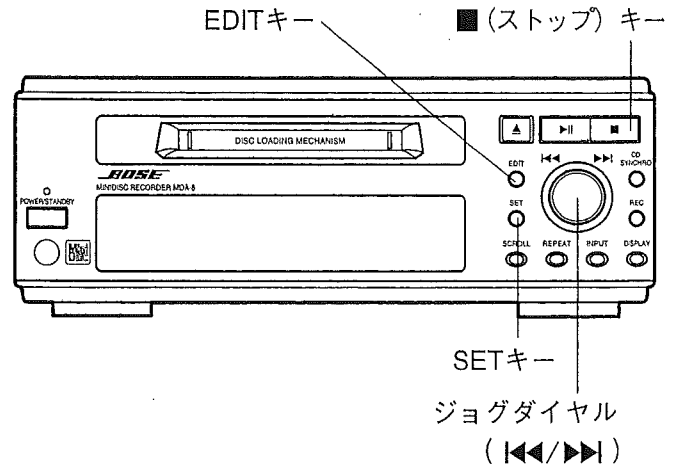
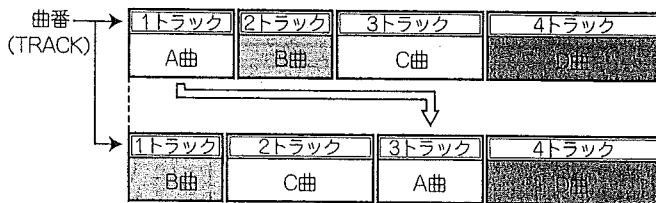
つないだ曲を元に戻せます

ディバイド機能を使って曲を分けます (「曲を分ける (ディバイド機能)」31～32ページ参照)。

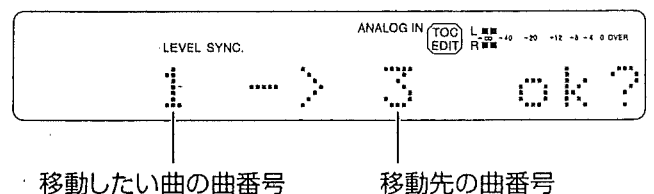
曲を移動する（ムーブ機能）

ある曲を好きな位置に移動して、曲順を変えることができます。移動後の曲番号は、自動的に改めて連続した曲番号が付きます。

例：A曲を3曲目に移動するとき



1. 移動したい曲の曲番号が表示されるまで、ジョグダイヤル (◀▶) を回します。
2. “Move ?” が表示されるまで、EDIT (エディット／編集) キーを押します。
3. SET (セット) キーを押します。表示部に 移動したい曲番号 → 移動先の曲番号 “ok ?” 表示されます。
4. 移動先の曲番号が表示されるまで、ジョグダイヤル (◀▶) を回します。



曲を移動するのを途中でやめるには――

EDIT (エディット／編集) キーまたは、■ (ストップ) キーを押します。

5. SET (セット) キーを押します。表示部に “Complete” が表示されて消えると、曲が移動します。

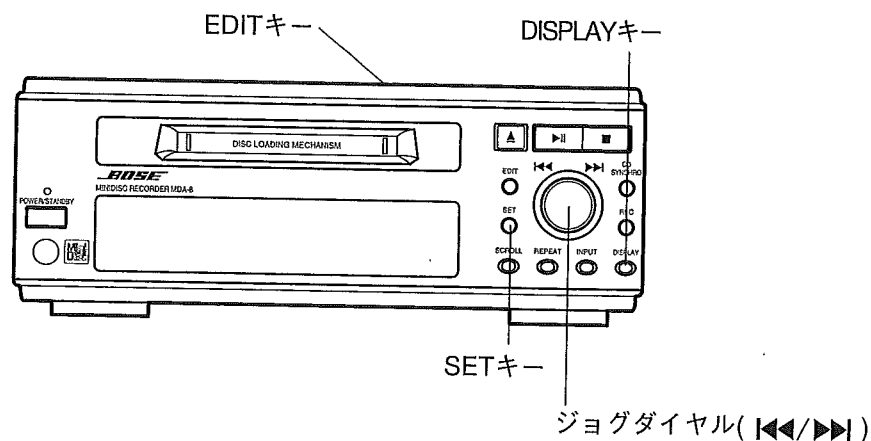
曲名やディスク名を付ける (タイトル機能) 本体で操作する

アルファベットの太文字や小文字、数字、記号、カタカナを使って、曲名やディスク名を付けることができます。1枚のディスクに合計約1700文字*を入力できます。この操作は、本体で行います。

*カナ文字は1文字分のデータ量が多いため使用したとき入力できる文字数が少なくなります。

*1曲番号、1ディスク名は最大250文字まで付けられます。250文字を超えると表示部に“Name Full”が表示されます。

*他のMDレコーダーで251文字以上入力されたディスクを本機で使用しタイトルの操作を行うと250文字を超える文字は消去されます。

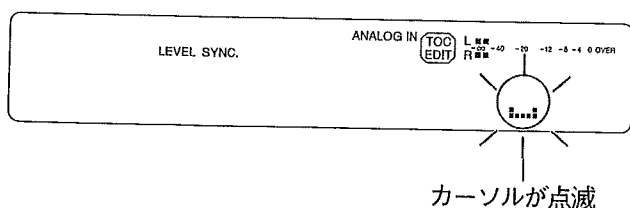


再生中または、再生一時停止中、録音中、停止中に行います。再生中および録音中は、その曲が終わるまでに曲名を付け終えてください。途中で曲が終わると、それまで入力していた文字は無効になります。

1. “Name in ?” が表示されるまで、EDIT (エディット/編集) キーを押します。付けるタイトルが、曲名かディスク名かで、操作するときが異なります。次の表にしたがって操作してください。

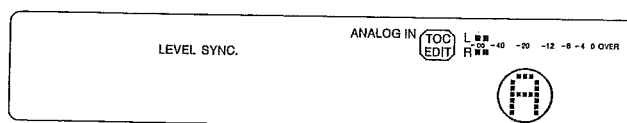
付けるタイトル	操作するとき
曲名	再生中、再生一時停止中、録音中、停止中に曲を選んで(曲番号を表示して)いるとき ※曲を選ぶときは、ジョグダイヤル(◀▶)を回します。
ディスク名	停止中に曲を選んでいないとき

- 2.SET (セット) キーを押します。表示部に “Name Reading” が点滅表示され、カーソルが点滅します。



- 3.DISPLAY (ディスプレイ) キーを押して、文字の種類を選ぶ。

文字の種類	操作のしかた
大文字 アルファベット	“A” が表示されるまで、DISPLAY (ディスプレイ) キーを押す
小文字 アルファベット	“a” が表示されるまで、DISPLAY (ディスプレイ) キーを押す
数字	“0” が表示されるまで、DISPLAY (ディスプレイ) キーを押す
カタカナ	“ア” が表示されるまで、DISPLAY (ディスプレイ) キーを押す



曲名やディスク名を付ける（タイトル機能）本体で操作する

4. 希望の文字が表示されるまで、ジョグダイヤル（◀◀/▶▶）を回します。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 YZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz0
 123456789! " # \$ % & ' () * + , - .
 / : ; < = > ? @ _ ` ` アイウエオカキクケコサシス
 セソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモ
 ヤユヨラリルレロワランアイウエオヤユヨツ
 °（スペース）再び A

文字の種類を変えたいときは、DISPLAY（ディスプレイ）キーを押します。

5. 希望の文字で、ジョグダイヤル（◀◀/▶▶）を押します。手順4で選んだ文字が点灯になり、次の位置（右どなり）でカーソルが点滅します。

6. 手順3～5を繰り返して、希望のタイトルを表示させます。

間違えた文字を修正するときは――

SCROLL（スクロール）キーまたは、REPEAT（リピート）キーで間違えた文字を点滅させ、手順3～5を繰り返します。

1文字分空けたり挿入するときは――

REC（レック）キーを押します。1文字分の空白ができます。

1文字分移動するときは――

カーソルが点滅した状態のまま、REPEAT（リピート）キーを押してカーソルを右に移動します。

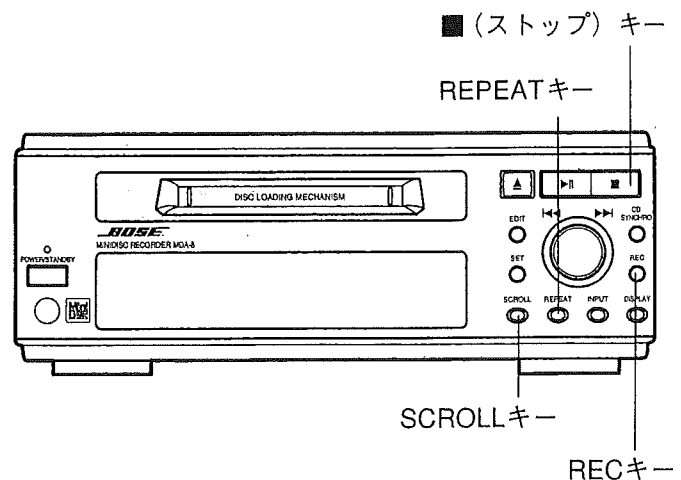
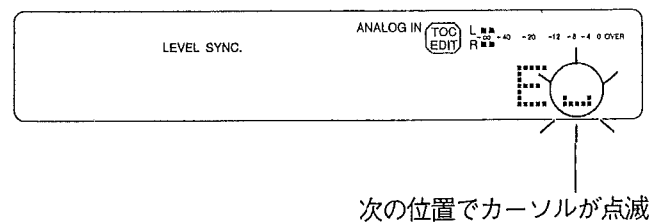
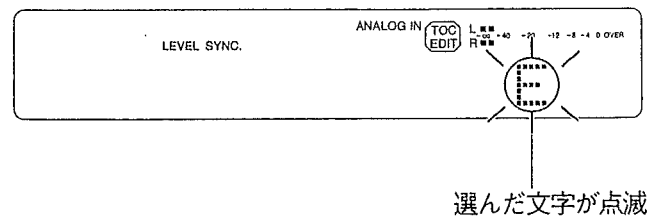
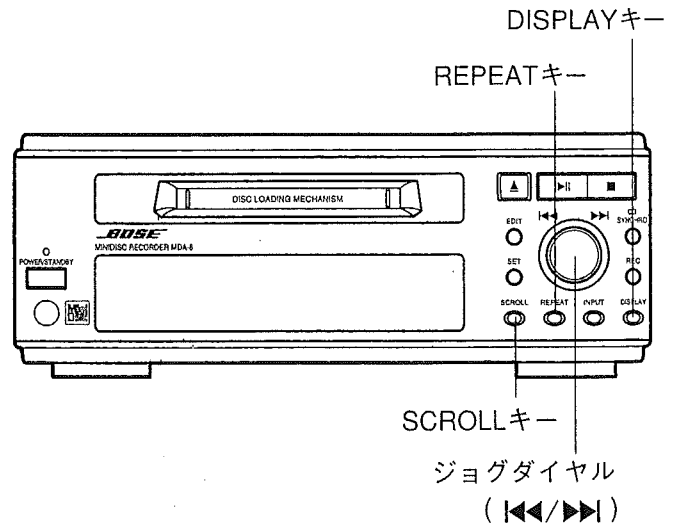
文字を消すときは――

SCROLL（スクロール）キーまたは、REPEAT（リピート）キーで間違えた文字を点滅させ、EDIT（エディット／編集）キーを押します。

7. SET（セット）キーを押す。“Name Writing” が点滅表示し、曲名または、ディスク名が付きます。

タイトルを付けるのを途中でやめるには――

■（ストップ）キーを押します。



曲名やディスク名を付ける（タイトル機能）リモコンで操作する

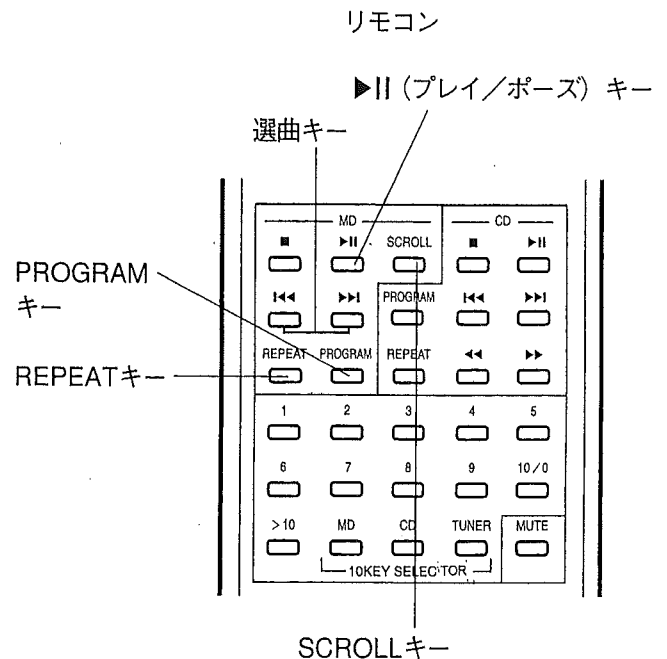
録音中にリモコンを使って、曲名を付けることができます。

1. 録音中にリモコンのSCROLL（スクロール）キーを押します。表示部に“Name Reading”が点滅表示され、カーソルが点滅します。
2. リモコンの▶II（プレイ／ポーズ）キーを押して文字の種類を選びます。
3. 希望の文字が表示されるまで、選曲（I◀/▶I）キーを押します。
4. リモコンのPROGRAM（プログラム）キーを押してカーソルを右に移動します。リモコンのREPEAT（リピート）キーを押すとカーソルが左に移動します。
5. 手順2～4を繰り返して、希望のタイトルを表示させます。

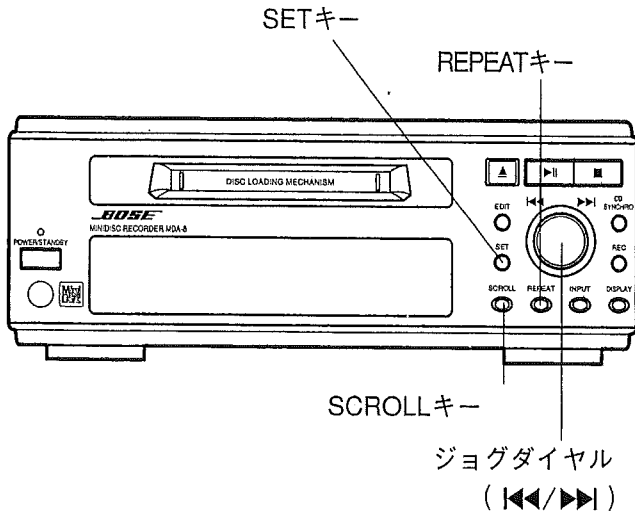
間違えた文字を修正するときは

PROGRAM（プログラム）キーまたは、REPEAT（リピート）キーで間違えた文字を点滅させ、手順2～4を繰り返して修正します。

6. もう一度リモコンのSCROLL（スクロール）キーを押します。表示部に“Name Writing”が点滅表示し、曲名が付きます。



曲名やディスク名を変更する

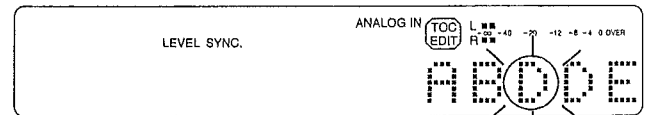


1. “Name in ?” が表示されるまで、EDIT（エディット／編集）キーを押します。変更するタイトルが、曲名かディスク名かで、操作するときが異なります。次の表にしたがって操作してください。

変更するタイトル	操作するとき
曲名	再生中、再生一時停止中、録音中、停止中に曲を選んで（曲番号を表示して）いるとき ※曲を選ぶときは、ジョグダイヤル（◀▶）を回します。
ディスク名	停止中に曲を選んでいないとき

- 2.SET（セット）キーを押します。表示部に “Name Reading” が点滅表示され、カーソルが点滅します。

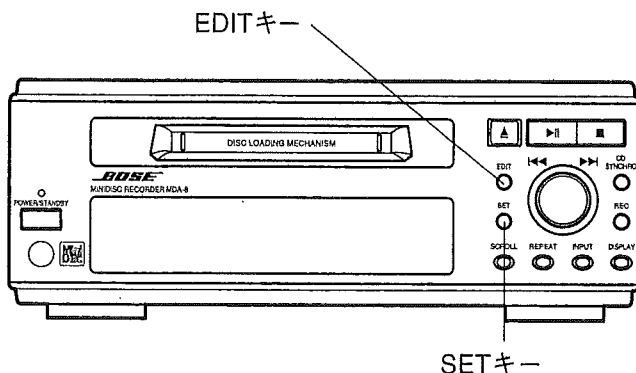
- 3.SCROLL（スクロール）キーまたは、REPEAT（リピート）キーで変更したい文字を点滅させ、「曲名やディスク名を付ける」手順3～5を繰り返します。



変更する文字が点滅

- 4.変更が終わったらSET（セット）キーを押します。

すべての曲名とディスク名を消す（ネームイレース機能）



一度に、ディスク中のすべての曲名やディスク名を消せます。いったん消すと、元に戻せません。

- 1.停止中、“Name Erase ?” が表示されるまで、EDIT（エディット／編集）キーを押します。

- 2.SET（セット）キーを押します。すべての曲名とディスク名が消えます。

1枚のMDの内容（曲と曲名、ディスク名）をすべて消せます（「全曲消去」30ページ参照）。

メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、英語のメッセージが出ます。日本語の意味は次の表の通りです。

メッセージ	意 味	メッセージ	意 味
Blank Disc	購入したばかりの録音用MD、または全曲を消去した録音用MDが入っている。	NO DISC	MDが入っていない。
Cannot Copy	デジタル録音できない状態になっている（「SCMSについて」16ページ参照）。	No Track	曲は入っていないが、ディスク名だけ付いているMD。
Cannot EDIT	プログラム、ランダム再生の状態編集しようとした。	Protected	MDが誤消去防止状態になっている（「MDの取り扱いについて」15ページ参照）。
Disc Error	異常な（損傷している、TOCが入っていない）MDが入っている。	Retry	録音中、振動やMDの傷があったので、記録し直している。
Disc Full	MDの残量時間がないため、録音できない（「システム上の制約について」16ページ参照）。	Retry Error	録音中、振動やMDの傷がいくつもあったため、記録し直しが連続し、正常に録音できない。
Impossible	MDの1曲目でコンバインしようとした。1曲目ではコンバインできない。	Sorry	つなぐことができない曲や部分をつなごうとした。
Name Full	入っている曲名とディスク名が最大値に達した。約1700文字しか入れられない。	Din Unlock	デジタル音源が正しく接続されていない。

故障かなと思ったら？

症 状	原 因
ディスクに示された収録可能時間を使い切っていないのに“Disc Full”が表示される。	ミニディスクでは、時間に関係なく、録音できる曲数に制限があります。曲番号が255以上になる録音はできません。
曲番号にも収録可能時間にも余裕があるのに“Disc Full”が表示される。 コンバイン 機能が使えないことがある。 曲を消しても残り時間が増えない。 早送り、早戻しをすると、音が途切れることがある。	部分的に消して録音しなおす操作を繰り返すと、ディスクのあちらこちらに空き部分ができます。このようなディスクに録音する場合、ミニディスクでは1曲のデータを空き部分にこまかく分けて記録します。録音中、分けられた部分が多くなると“Disc Full”が表示されることがあります。分けられて8秒以下の部分ができるとその曲はコンバイン 機能でつなげることはできません。また、その部分は消しても残り時間は増えません。こまかく分けて記録されている曲は、早送りや早戻しすると音が途切れることがあります。
録音した時間と残り時間を足しても、ディスクに表示された収録可能時間にならない。	ミニディスクでは、最低でも2秒分の連続したスペースがないと録音できません。そのため、短い空き部分のたくさんできたディスクでは、実際に録音できる時間は短くなります。

故障の場合のお問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせは、ボーズ株式会社、修理担当部門 ☎ | 修理部門 042-357-5250
製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社、インフォメーションセンター ☎ 03-5489-0955
までご連絡ください。

仕 様

形 式 : ミニディスクデジタルオーディオシステム
デ ィ ス ク : ミニディスク
記 録 方 式 : 磁界変調オーバーライト方式
再生読み取り方式: 非接触光学式読み取り
(半導体レーザー使用)
レ ー ザ ー : 半導体レーザー ($\lambda=780\text{nm}$)
録音再生時間: 最大74分 (MD74使用時)
回 転 数 : 約 400rpm~900rpm
エラー訂正方式: アドバンスドクロスイインターリーブリード
ソロモンコード (ACIRC)
サンプリング周波数: 44.1kHz
コーデイング: アダプティブトランスフォーム
アコースティックコーデイング
変 調 方 式 : EFM
チャンネル数: ステレオ2チャンネル
周波数特性: 5~20,000Hz $\pm 0.5\text{dB}$
全高調波歪率: 0.007%
SN比 (再生時): 95dB
ワウフラッター: 測定限界値以下

入力端子
アナログ入力
基 準 入 力 レ ベ ル : 500mVrms/47k Ω
デジタル入力
オ プ テ ィ カ ル : -27~-14.5dBm
(発光波長660nm)
出力端子
ア ナ ロ グ 出 力 : 1.9Vrms
デジタル出力
オ プ テ ィ カ ル : -21~-15 dBm
(発光波 660nm)
その他
電源電圧/電源周波数: AC100V, 50Hz/60Hz
定 格 消 費 電 流
(電気用品取締法): 12W
寸 法
(幅 高 さ 奥 行 き) : 200mm, 72.5mm, 270mm
標準質量 (重量) : 2.2kg

*本機の意匠および仕様の一部は、改良のため予告なく変更することがあります。

保 証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

BOSE®
Better sound through research®

ボーズ株式会社

〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル TEL 03-5489-0955

- 仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- 弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。